

小学校
「京都府学力診断テスト」の
結果について



平成29年12月

精華町学力向上総合推進委員会（小学校部会）

目 次

1	はじめに	1
2	京都府学力診断テストの概要	2
3	「正答率の低い」典型的な問題例	3
	小学校4年生国語科	4
	中学校1年生国語科	13
	小学校4年生算数科	23
	中学校1年生数学科<算数科>	29
4	診断テストの成果と今後の方向性	37
5	中1質問紙調査から見えてくるもの	39
6	京都府学力診断テストの分析から見えてきたこと	50
7	質の高い・わかる授業を目指して	51
	～せいか授業スタンダードの確立に向けて～	
8	おわりに	52

はじめに

精華町教育委員会では、学校関係者で組織する学力向上総合推進委員会を平成19年度から設置し、「全国学力・学習状況調査」の結果について、返却されたデータの詳細な結果分析を行い、各学校の授業改善等に資する資料として提供してきました。また、平成22年度からは、「全国学力・学習状況調査」が悉皆調査から抽出調査に改められたことを受け、府で実施されてきた学力診断テストを町独自で分析することとし、現在に至っています。

今年度も質問紙と学力の相関関係から、子どもの課題を明らかにして、生活面・学習面をトータルに指導ができるよう『指導アイデア事例』や『指導改善のポイント』など様々な部分で工夫がなされています。

各学校においては、自校の課題に即した分析結果とあわせて、この冊子を「質の高い学力」を育むための有効な資料として、研修会等の様々な場面で活用していただき、子どもたちの学力向上に努めていただければと思います。

最後になりましたが、精力的に分析に携わっていただいた、精華町学力向上総合推進委員会のメンバーにお礼を述べるとともに、本分析結果が町内各小中学校で生かされることを期待します。

平成29年12月

精華町教育委員会

教育長 太田 信之

平成29年度「京都府学力診断テスト」の概要

平成29年12月
精華町教育委員会

1 京都府学力診断テストの目的

学習指導要領に示す目標や内容に照らした学習の実現状況及び児童生徒の学習環境や家庭における生活状況等の特徴や課題などを的確に把握するとともに、その結果を分析することにより指導上の課題を明らかにして、授業改善を推進し、質の高い学力をはぐくむ。

2 実施対象の児童生徒と参加状況

小学校第4学年及び中学校第1学年

受検者数 国語 小学校4年 368名、中学校1年 339名 計 707名

算数 小学校4年 368名、中学校1年 339名 計 707名

(数学)

3 実施教科と出題内容及び問題数

国語、算数の2教科

・基礎・基本に関する問題 2.0問

・活用に関する問題 5問

4 実施日時

平成29年4月12日(水)～17日(月)

5 テスト結果の概要

(1) 京都府の状況

* 国語 小学校4年

○基礎・基本の問題は定着している。しかし、「読むこと」の領域に課題が見られる。また、活用の問題についても、一定の定着が見られる。

国語 中学校1年

○基礎・基本の問題は概ね定着しているが、「読むこと」の領域に課題が見られる。活用の問題については、依然課題が見られる。

* 算数 小学校4年

○基礎・基本の問題は定着している。活用の問題については、課題もみられる。各領域とも一定の定着はみられるが、「数量関係」については一部課題も見られる。

数学(算数) 中学校1年

○基礎・基本の問題は概ね定着している。「数と計算」の領域は定着しているが、「図形」「量と測定」の領域に課題が見られる。また、「数量関係」の一部に課題が見られる。活用の問題については、依然課題が見られる。

(2) 精華町の状況

* 国語 小学校4年、中学校1年

総合点において、京都府・山城局双方の平均値を上回っており、良好な結果である。しかし、「書くこと」「読むこと」「伝国」の領域については、正答率が他の領域に比べ低く今後の実践上の課題である。

* 算数・数学 小学校4年、中学校1年

総合点において、京都府・山城局双方の平均値を上回っており、良好な結果である。4年は「数と計算」「量と測定」「数量関係」「数学的な考え方」に課題がみられる。中学校1年も平均値を上回っており、良好な結果である。しかし、「量と測定」「図形」「数量関係」に課題がある。

(3) 基礎・基本に関する問題と活用に関する問題

小学校4年国語、中学校1年国語、小学校4年算数、中学校1年算数(数学)は京都府・山城局の正答率より上回っており、概ね良好な結果である。

(4) 得点別度数分布結果

度数分布表で得点49点未満の児童を見ると、精華町は京都府・山城局と比較して、基礎学力の未定着児童(成績下位群)の割合が少ない。

6 精華町全体の分析結果

(1) 学年・教科別得点分布

* 国語

- ① 小学校4年国語—下位層が少なく、上位層が多い。全体として右寄りの分布である。
- ② 中学校1年国語—下位層が少なく、上位層が多い。全体として右寄りの分布である。

* 算数(数学)

- ① 小学校4年算数—下位層が少ないが、分布に若干の偏りがみられる。
- ② 中学校1年算数(数学)—下位層が少ないが分布に若干の偏りがある。上位層が多い。

(2) 問題別正答率の比較

- ① 小学校4年国語・算数—国語・算数はおおむね良好な結果であった。府の正答率が低いものは、精華町でも正答率が低くなっている。
- ② 中学校1年国語・算数(数学)—おおむね良好な結果であった。府の正答率が低いものは、精華町でも正答率が低くなっている。

(3) 教科別

- ① 国語—小学校4年は、領域で見ると、ほぼ均等に分布している。中学校1年は「話すこと・聞くこと」「伝国」の得点が高い。
小学校4年、中学校1年ともに、「読むこと」「活用」の領域にやや課題がある。
- ② 算数—小学校4年は「数量関係」「数と計算」「量と測定」「数学的な考え方」「活用」に課題が見られる。中学校1年は、「数と計算」の得点が高い。「量と測定」「図形」「数量関係」「活用」に課題が見られる。

(4) 平成25年度からの経年比較

- ① 現中学校1年の小学校4年時の結果と今年度の結果を比べると国語・算数の「基礎・基本」「活用」は伸びている。
- ② 4年間のスパンで経年比較をすると中学校1年は国語・算数ともに京都府・山城局双方の平均値を上回っている。

7 「正答率の低い」典型的な問題例及び指導改善のポイント

「正答率の低い」典型的な問題例

問題□の三「話すこと・聞くこと」（基礎・基本）

三

木山さんは、スピーチの中で次のように話しています。



たとえば、ぼくたちは、外遊びや車の絵をかくことが好きです。

木山さんは、どのようなくふうをしましたか。

サ 内ようがよく分かるようにじゅんじょよく話すくふう

シ れいをあげてくわしく話すくふう

ス 聞き手によびかけるように話すくふう

セ 理由をあげて分かりやすく話すくふう

◇出題の趣旨

「話すこと・聞くこと」（基礎・基本）
目的に応じて、事例を挙げて話す問題。

◇学習指導要領における領域・内容
「話すこと・聞くこと」（1）イ
相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。

◇正答率

精華町 41.0%

（京都府33.4%）

◇正答 シ

◇誤答分析

- ・サを選択・・・順序よく話す工夫と捉えている。
- ・スを選択・・・呼びかける工夫と捉えている。
- ・セを選択・・・理由を挙げる工夫と捉えている。

授業改善のポイント

「話すこと・聞くこと」（基礎・基本）

「大切な友だち」についてグループでスピーチをする内容である。学習指導要領内容（2）言語活動例「ア 出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見をのべたりすること。」と関連させた問題である。

話す内容を構成するときは、伝えたいことだけでなく、関心を抱いた理由やなぜそのような考えになったのかという根拠、さらに事例などを挙げながら、筋道立てて内容を明確にしていくことが大切である。そのためには、発表内容を構成したり、発表の仕方を工夫したりする学習を系統的、継続的に進めていくことが必要である。

よりよく伝えたいという意欲は、その必然性より生じることから、児童自身が相手や目的を強く意識して学習に取り組むことが大切である。また、他教科や日常生活においても、指導する立場を効果的に設定していくことが重要である。

POINT



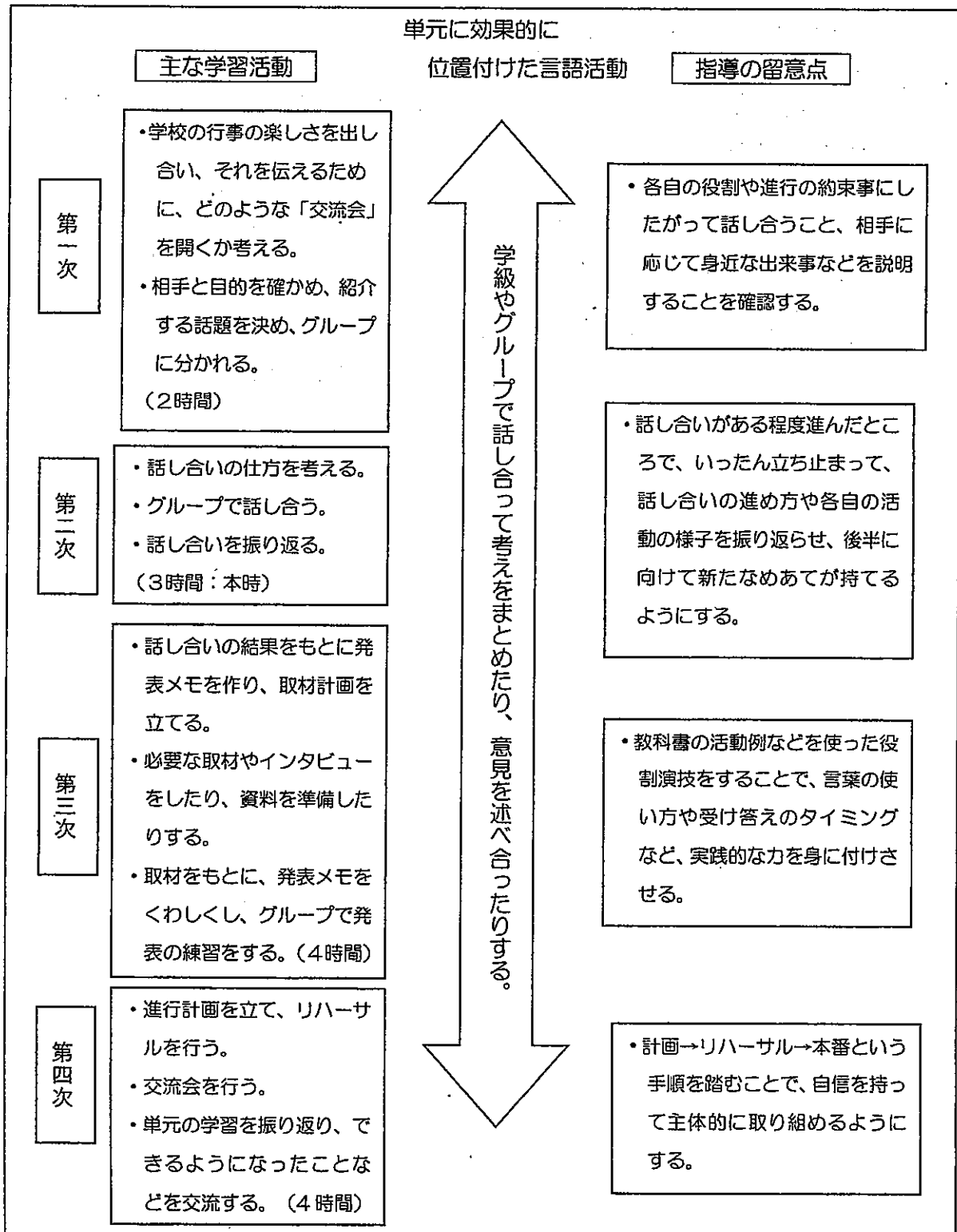
改善に向けての指導アイデア例

○学習例 「話す・聞く」に関する指導例（光村図書3年：「私たちの学校行事」）

1 単元目標 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うことができる。

相手や目的に応じて、筋道を立てて、適切な言葉遣いで話すことができる。

2 指導計画 (13時間扱い)



- 3 本時のめあて 教科書の例をもとに、司会や提案などの役割や、進行の方法、話し合いに臨む留意点などを理解しよう。

4 展開例

① 学習の振り返り

- ・ これまでに経験した話し合いについて、内容や進め方、感じたことなどを話し合う。
- ・ 本時の目標と、課題を確かめる。

② 「教科書グループの話し合い例」を演じる。

- ・ 前時に決めたグループに分かれて役割を決める。
- ・ 各自で教科書を読んで、自分の役割の発言内容や、「たいせつ」にすることを確かめる。
- ・ 教科書の例にしたがって、グループの話し合いを演じる。

③ 上手な話し合い方について考える。

- ・ 演じてみて感じたことや、気付いたことをグループで話し合う。
- ・ 話し合いへの参加の仕方、司会の仕方について、学級全体で話し合っ確かめる。

④ 本時の振り返り

- ・ 次の時間には、この時間に学習した「上手な話し合い方」を活かして、「交流会」について、実際に話し合いを行うことを伝え、見通しと意欲を持てるようにする。

問題二の二「言語事項」(基礎・基本)

二
次の文で、「ゆらゆらと」は、どの部分をくわしくしていますか。

大きな | カ
こいのぼりが | キ
ゆらゆらと | ク
風に | ケ
ゆれている。 | ケ

◇出題の趣旨

「言語事項」(基礎・基本)

文中の修飾語と被修飾語の関係を答えさせる問題。

◇学習指導要領における領域・内容

言葉の特徴やきまりに関する事項

(1) イ(キ)

文の中で語句の係り方や照応の仕方に気付き、いろいろな文の構成があることについて理解する。

◇正答率

精華町38.6%

(京都府42.6%)

◇正答 ケ

◇誤答分析

- ・正答は「ケ」である。多い誤答は、「キ」が47.1%であった。主語にあたる「こいのぼりが」をくわしくしていると考えている。
- ・修飾語と被修飾語の関係が理解できておらず、「ゆらゆらと」の直前にある主語「こいのぼりが」の選択が多くなったと考えられる。

授業改善のポイント

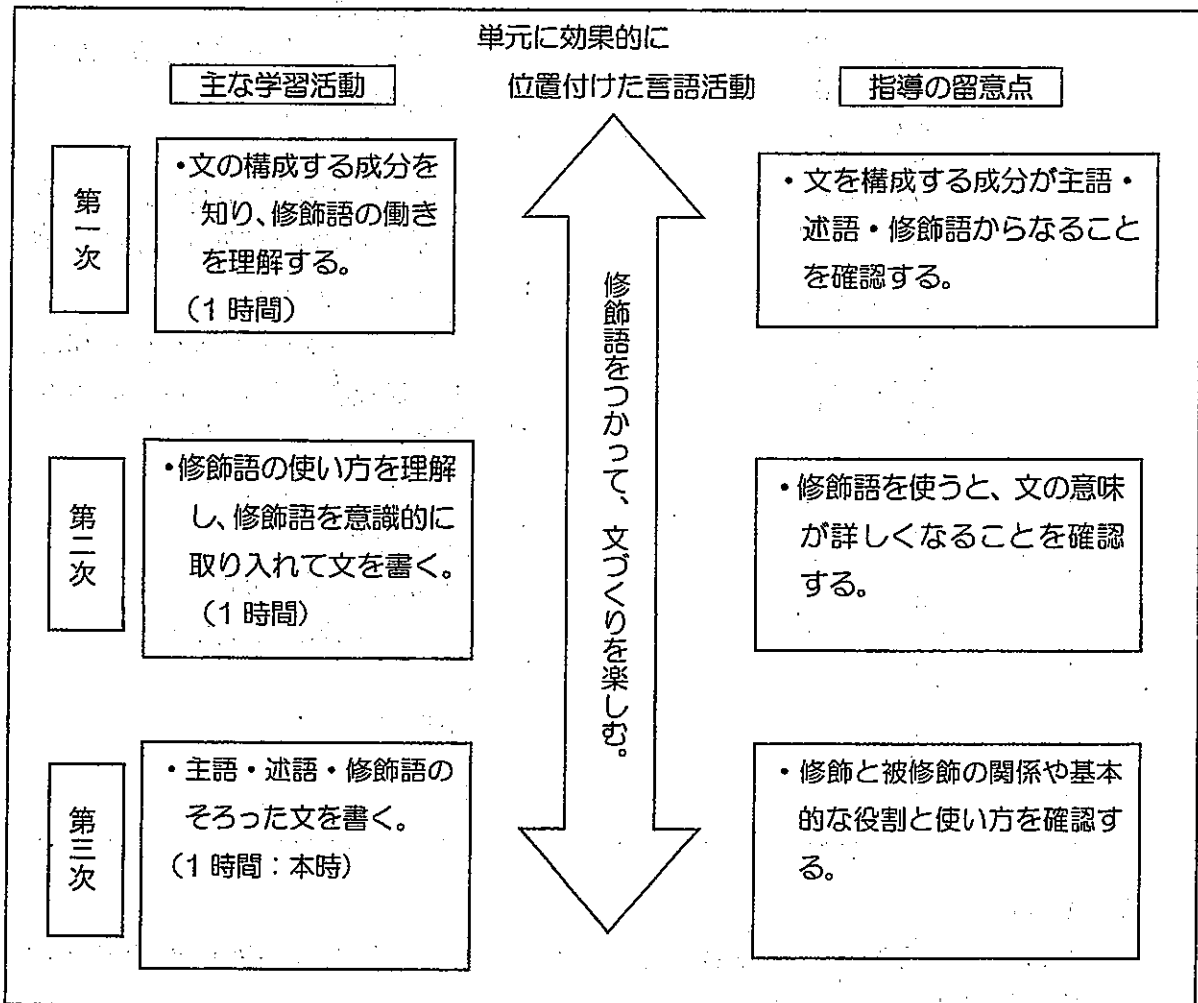


3年生で学習した後、他学年では修飾語を学習する単元は出てこない。そこで、各学年の指導計画に修飾語の学習を位置づけて、系統的・継続的に学習に取り組む必要がある。説明文の中で、修飾語と被修飾語の関係を意識させて文章の構成を捉えさせることも大切である。

改善に向けての指導アイデア例

○学習例 修飾語に関する指導例

- 1 単元の目標 修飾・被修飾の関係や修飾語の役割を理解し、主語・述語・修飾語がそろった文を書くことができる。
- 2 指導計画 (3時間扱い)



学習指導に当たって各学年の発達段階に応じた事例

	主語・述語	修飾語・被修飾語
1年生	・教科書などに出てくる文において主語と述語に気付くこと。	
2年生	・単文において主語と述語の照応に気付くこと。	・単文における修飾と被修飾との関係に注意すること。
3年生	・複文における主語と述語の関係に注意すること。	・複文における修飾と被修飾との関係をはっきりさせること。
4年生	・複雑な文でも主語と述語の関係がわかること。	・修飾語の中の連体修飾語、連用修飾語の働きの違いに気付くこと。
5年生	・いろいろな種類の文の中で主語と述語の関係を理解する。	・文の中には、連体修飾節、連用修飾節のあることに気付くこと。
6年生	・主語と述語の関係を正しくとらえ文と文の構成を理解すること。	・複雑な文でも修飾と被修飾の関係について理解すること。

- 3 本時のめあて 修飾・被修飾の役割や係り方を理解して、主語・述語・修飾語がそろった文を書くことができる。

4 展開例

① 主語・述語・修飾語の確認

(きれいな 小鳥が 飛ぶ。)

「が」「は」がついている言葉を「主語」と言い、文の一番最後で動作や様子を表す言葉を「述語」、後に続く言葉をくわしくする言葉を「修飾語」と言う。

② 画像を見て、1分間スピーチを考える。

1枚の写真を選び、1分間スピーチを書いてみよう。

③ 考えたスピーチ文の修飾語をさがす。

修飾語はどれかな。

④ スピーチ文を紹介する。

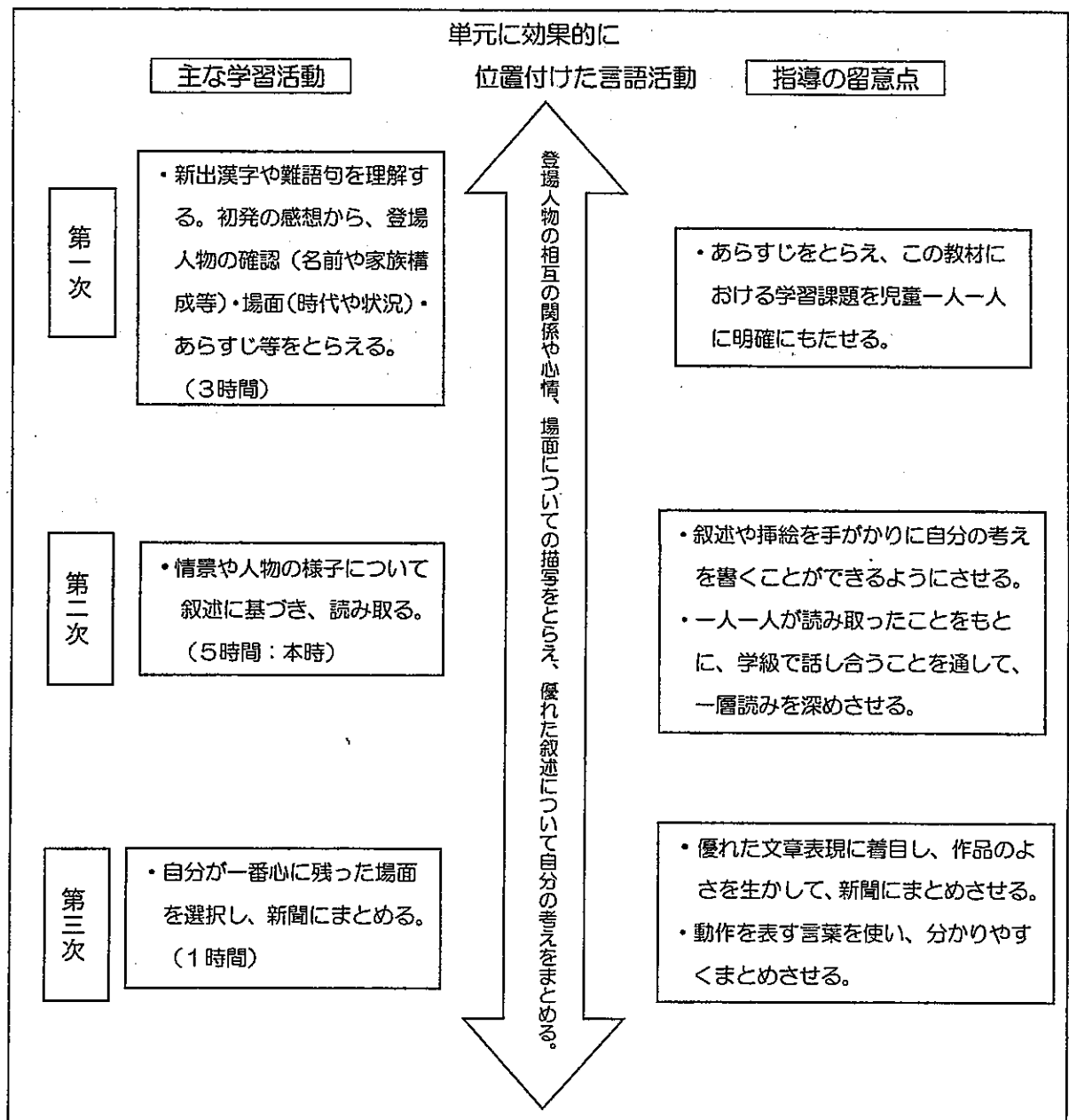
⑤ 友達の表現の工夫を発表する。

*友達の表現から修飾語の語彙数を広げる。

改善に向けての指導アイデア例

○学習例 「読むこと」に関する指導例（光村図書3年：「ちいちゃんのかげおくり」）

- 1 単元の目標 会話や動作を表す言葉をもとにして、情景を想像しながら読み、場面の様子がよく分かるように音読する。
- 2 指導計画 （9時間扱い）



- 3 本時のめあて たった一人でかげおくりをする、ちいちゃんの様子を読み取ろう。

4. 展開例

① 学習の振り返り

② 第四場面の読み取り

③ 登場人物の気持ちを想像する。

「ちいちゃんの様子が分かる言葉や文章にサイドラインを引きましょう。

そして、ちいちゃんになったつもりでちいちゃんの気持ちを考えてみましょう。」

④ 交流・話し合い

たった一人でかけおくりをするちいちゃんの気持ちや様子について、一人一人が読み取ったことをもとに、学級全体で話し合う。

「どの言葉や文章から、ちいちゃんのどのような様子や気持ちに気付きましたか。

また、それらについて、あなたはどんなことを感じたり、考えたりしましたか。」

⑤ 授業の振り返り

グループの友だちに、たった一人でかけおくりをするちいちゃんの様子や気持ちが伝わるように工夫して音読する。

問題②の二「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

二 次の文で、「さかんに」は、どの部分をくわしくして
いますか。次のア～エから一つ選びなさい。
…答の番号【 ？ 】

さかんに
美しい
鳥たちが
公園へ
やってくる。

ア
イ
ウ
エ

○出題の主旨
「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」（基礎・基本）
修飾と被修飾の関係を正しく理解する力が身についているかど
うかをみる問題である。

○学習指導要領における領域・内容
「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」
(1) イ(キ)
文の中での語句の係り方や照応の仕方に気付き、いろいろな
文の構成があることについて理解する。


○正答率 精華町47.2%（京都府 43.8%）
○正答 エ

○誤答分析
・正答は「エ」である。町内で最多の誤答は「イ」で44.4%
であった。昨年度の問題では直後の言葉（主語）を選択し間違え
るとというのが24.0%で最多であった。昨年度、「修飾語と被
修飾語が離れている場合、関係性を理解せず直後の言葉を選んで
しまう。」という分析と、「主語にあたる言葉を選んでしまう。」
という分析があったが、今年度の問題と誤答から再考すると、誤
答の傾向としては、「主語にあたる言葉を選んでしまう。」とい
う方が強いようである。

・無解答 精華町0.3%

授業改善のポイント

POINT 修飾語の学習は3年生時に学習した後、単元として年間指導計画に位置づけ
て取り組む学年はない。したがって、3年生以後、定期的の問題に取り組んだ
り、物語を読む際に、修飾語や（被修飾語）を探させたりするなど、繰り返
しの指導が求められる。また、3年生以後の指導の中で、「修飾語」という言葉
も意図的に使いながら、読むことの他にも、書くこと、話すことの指導の際に
活用を図っていくことが重要である。



5 山下さんのグループは、次の文章を音読で表現すること
にしました。次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【これまでのお話】

裕太と僕は、クラスでいちばん気が合うけど、すぐにぶつ
つかってしまふ。二学期の終業式、裕太とケンカをした。
「絶交だ！」と向こうが言うから、こっちは「一生口きか
ねえよ！」と言ってやった。そのまま冬休みに入ってしまった
い、会えない日が続く。年賀状、迷ったけど、裕太には出
さなかつた。ある日、同級生の香奈から、裕太が四月から
札幌に転校することになったと聞かされる。そんな中、裕
太から「あけまして、ごめん。」という年賀状が届く。急
いで「A HAPPY NEW YEAR こっちはごめん。」と返事を
書いて、直接、裕太の家の郵便受けに入れた。

「あいつはもう遊べないのかな。」
「まぶたの裏が急に熱くなった。胸がどきどきして、息が
詰まる。風に乗って空に上っていくタコを、じつとにらみ
つけた。」

軽くジャンプしたら、タコに引っぱられていっしょに空に
上っていきそうだった。札幌まで飛んでつちやうぞお、びっく
りすんなよお、なんて唇をとがらせていたら、空にタコ
がもう一つ浮かんだ。するする、するする、と——僕のタ
コを追いかけるように空を上っていく。
驚いて振り向いた瞬間、思わず「うわわっ。」と、声を
上げそうになった。

裕太がいた。こっちを見て、やっと気づいたのかよ、と
いうように得意そうに笑って、すぐに空の上のタコに目を

移した。

僕も、ふんっ、と自分のタコを見つめる。

「きんが、しんねん。」と裕太が言うので、「がしよおっ。」
と返事をしてやった。

「おまえ、ずっと留守だっただろ。」

「うん。ゆうべ帰ってきたんだ、札幌から。」

また一歩、近づいた。なんとなく、あいつも同じように、
こっちに近づいてきてるみたいだ。

「年賀状、ウチまで持ってきたのかよ。」

「……出すの忘れてたんだよ。」

「オレ、おまえに出したっけか？」

なに強がってんだよ、ほんと。

また一歩、また一歩。

「裕太、転校しちゃうってマジ？」

「うん……三月までこっちだけだ。」

また一歩、また一歩、また一歩……

「遊びに来てもいいからな、札幌に。」

いばるな、って。

「札幌って寒いじゃん。」と言ってやった。

すぐに何か言い返してくるだろうと思っていたら、裕太
はそれきり黙ってしまった。

やがて、裕太がハナをすすする音が聞こえてきた。

「遊びに行くから、マジ、死んでも行く。」

あわてて言った僕の声も、ハナ詰まりになっちゃった。

空に浮かぶタコを並んで見つ
めた。二つのタコは同じ高さで風に揺れながら、ピミョー
にくっついていたり離れたりを、いつまでも繰り返していた。

(「あいつの年賀状」重松 清 三省堂
平成二十三年版 小学生の国語 五年 学びを広げる)

○出題の主旨「読むこと」(基礎・基本)
書き手の意図を考え、自分の思いや考えと合わせて音声化し、音読する工夫について問う問題である。

○学習指導要領における領域・内容
読むことC(1)ア

自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。

○正答率

精華町28.3%

(京都府24.3%)

○正答 エ

○誤答分析

・「あわてて言った僕の声」という直後の叙述と「空に浮かぶタコを並んで見つけた」という3つ後の叙述を捉え場面の様子や二人の距離感を認識出来ていない。

・無解答 精華町16.9%

(京都府16.3%)

最後から二つ目の問題であり、解答する

時間が無く、落ち着いて文章を読解できなかったことも推測できる。実際、この問題に限らず、問題③の三「書くこと」記述(活用)問題以降、無解答が増加する。これは活用の記述問題ということで「分からない」という焦りが生まれ、以後「読むこと」問題④⑤と続く。いずれも初めての長文であり、内容を読み叙述をきちんと捉え理解するには、落ち着いて取り組める余裕と時間が足りなかったのではないかという推測もできる。

POINT

三 山下さんのグループは、「僕」の心情を表現するために、次の会話をどののように読めばよいか考えました。音読の仕方として、最も適切な組み合わせを、あとのア～エから一つ選びなさい。
…答の番号【24】
「遊びに行くから、マジ、死んでも行く。」

【読む速度】

- ① 落ち着いてゆつくりと読む
- ② たたみかけるように速く読む

【声の大きさ】

- ③ 遠くはなれた人に呼びかけるぐらいの声の大きさで読む
- ④ となりにいる人に話しかけるぐらいの声の大きさで読む

- ア ①と③
- イ ①と④
- ウ ②と③
- エ ②と④

授業改善のポイント

「音読や朗読をとおして心情や情景を捉えさせる場合」指導者が手本を示したり、朗読用の台本を用意したりして、それをもとに繰り返し読ませる。その後読んで気付いたこと、考えたことを交流させる。「どのように音読や朗読をしたいかを考えさせることで心情や情景を味わわせる場合」朗読台本を児童が作成するこの活動自体に意味がある。読解をした後に、この2つの活動やこれら以外にも言語活動例として学習指導要領に取り上げられているような活動を行うのではなく、言語活動をとおして、目的に応じた読解が行われるように単元を構想していくことが必要となる。

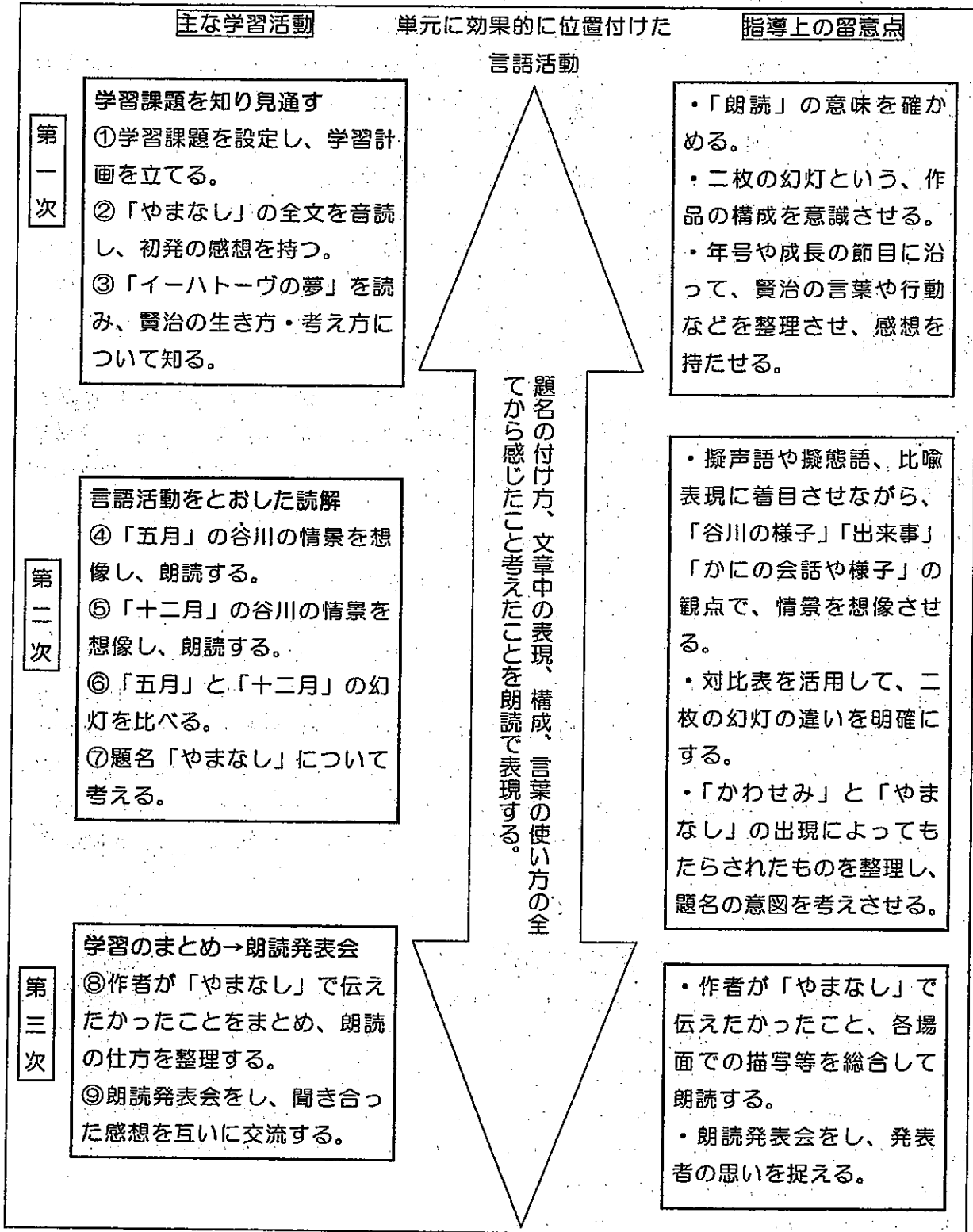


改善に向けての指導アイデア例

○学習例 「読むこと」に関する指導例（光村図書6年：「やまなし」）

1 単元の目標 作品の特徴や作者の思いを捉え、自分の感じたことが伝わるように朗読することができる。

2 指導計画 （8時間扱い）



3 本時のめあて

様子を表す言葉や出来事、比喩表現に着目しながら「五月」の幻灯を読み、想像した谷川の情景を朗読で伝える。

4 展開例

○「五月」の谷川の情景を「かわせみ」が現れる前と現れた後に分けて想像する。

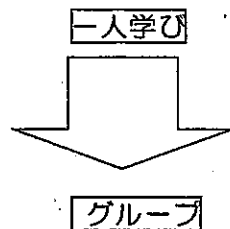
※想像する観点は

「谷川の様子」「出来事」「かにの会話や様子」の3観点とする。

※「かわせみ」の出現を境に川の中の様子が変化することを共通認識しておく。

※一人で想像する。

※想像したことから「どのように」読みたいかという視点で読み方を考えさせる。



※グループの中で朗読し合う。

※「どこを」「どのように想像したか」「どのように」読むかを伝えてから読み合う。

※「想像した谷川の情景が伝わったか」という視点で朗読の仕方の良いところやアドバイスを伝え合うようにさせる。

※なぜそのように読むのか理由を説明させる。

●谷川の情景を想像することを大切に「クラムボン」が何かという追求になりすぎないように配慮する。

●「五月」の谷川の情景には、明るいイメージと暗いイメージの両面があること、また、出来事から、恐怖や不気味さがあることを共通理解させるようにする。

問題⑤の四「読むこと」(活用)

<p>の五字を書きなさい。</p> <p>…答の番号【25】</p> <p>※答えは解答用紙に書きなさい。</p>	<p>四 山下さんの発表</p> <p>わたしたちがこの文章を音読するとき、一番大切にしたのは裕太と「僕」のゆれ動く心情をどう表現するかです。中でもDの一文は、空に浮かぶ夕日の風景が、すれちがいながらも通じ合った二人の心情を表現している文だと思います。どう音読すればよいか、何度も練習をしました。(発表が続く)</p>	<p>○出題の主旨「読むこと」(活用)</p> <p>優れた叙述について自分の考えをまとめ発表する内容について問う問題である。</p> <p>○学習指導要領における領域・内容</p> <p>読むことC(1)才</p> <p>本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。</p> <p>○正答率</p> <p>精華町17.1%</p> <p>(京都府17.2%)</p> <p>○正答 ア(二つのタコ)</p>
<p>○誤答分析</p> <p>・正答の文を選んでいるが、最初の五字を選んでおらず、「一文の最初の五字」の意味理解が出来ていない。この問題については昨年度も同様の問題が出ており正答率が19.0%と低かった問題である。</p> <p>・誤答として多かったのが(27.2%)、登場人物二人の「心情」と情景描写のある文章表現をつなげる読みが出来ずに、正答と違う部分を選択する間違いであった。</p> <p>・無解答 精華町37.5% (京都府36.1%)</p>		

授業改善のポイント

初めて読む長文を短時間で理解したり、着目すべき叙述を見つける能力は児童に求める能力としては難易度が高いものである。日常の授業の中で、100%児童の「読み」に任せ、児童らが立ち止まる表現だけを取り上げる学習指導に終始してはこの能力・技能を身に付けさせることは出来ない。情景描写を読み取るポイントとして指導者側が整理し、学習の適切なタイミングで指導することが求められる。

POINT



ちなみに、情景描写に係る文章表現として着目すべきポイントは次の5つで、【①文末表現にあらわれる心情語②会話文⇒口調や内容から話し手の心情を読み取ることができる③登場人物の動作や行動⇒行動や体の部位を使った慣用句などで登場人物の心情が描かれる④登場人物の表情や態度⇒喜怒哀楽を示す表情の表現や態度で心情を表現する⑤天気や象徴などの情景描写⇒天候の変化で心情の変化を示したりシンボルによって暗示する】である。

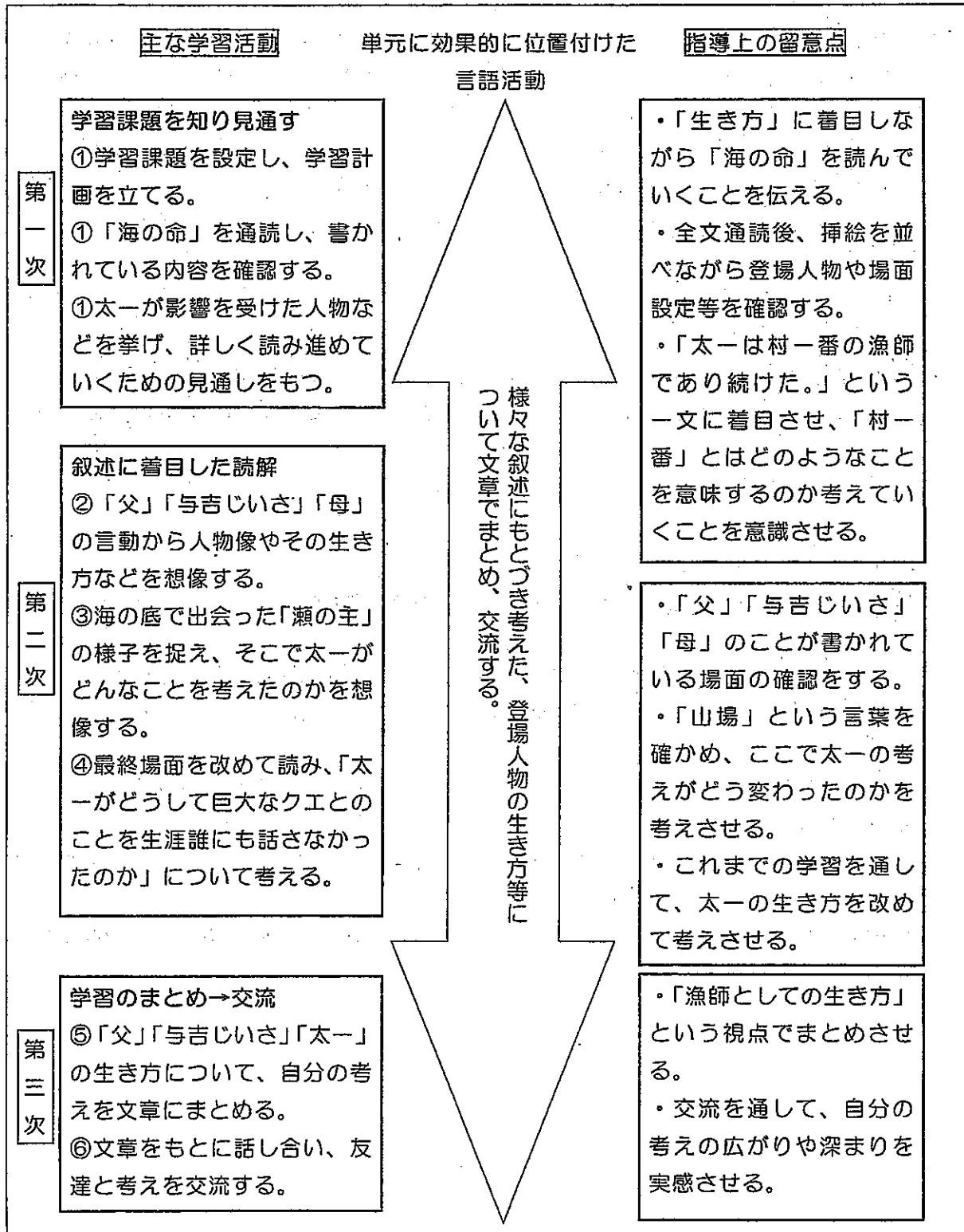
こういったことを知識として知っている児童が自身の読解の中で思考し推測し判断する学習へ展開していけるようにすることが求められる。

改善に向けての指導アイデア例

○学習例 「読むこと」に関する指導例（光村図書6年：「海の命」）

1 単元の目標 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。

2 指導計画 （6時間扱い）



3 本時のめあて

「瀬の主」の描写を読み取り、対峙した際の「太一」の心情を想像することができる。

4 展開例

○「瀬の主」の描写を読み取る。

※「瀬の主」の描写には、場面によって微妙な差異があることに気付かせ、それが「太一」の心情を反映していることを押さえる。

※この場面には心情を考えたり、想像を広げたりできる優れた表現がある。「光る緑色の目をしたクエ」では、どこか不気味な雰囲気もあるが、光る緑色などは魅力的なイメージも広がる。また、大魚クエのイメージは、「まるで岩のような魚」「青い宝石の目」「ひとみは黒いしんじゅのよう」「刃物のような歯」「岩そのものが魚のよう」という比喻によって描写されている。そこからは、大きく、美しく、かつ恐ろしい、矛盾をはらむ神秘的な世界が広がる。比喻という表現技法に触れながらより深く読み進めていくことができる。

○「太一」の心情を想像する。

※「海中に棒になって差し込んだ光」「耳には何も聞こえなかったが、太一は壮大な音楽を聞いているような気分になった。」では、海にもぐったときの世界が広がる。海の中をそう感じられる太一の心情も想像が膨らむ。

※情景描写に係る文章表現の着目ポイント（5つ）

①文末表現にあらわれる心情語

②会話文⇒口調や内容から話し手の心情を読み取ることができる。

③登場人物の動作や行動⇒行動や体の部位を使った慣用句などで登場人物の心情が描かれる。

④登場人物の表情や態度⇒喜怒哀楽を示す表情の表現や態度で心情を表現する。

⑤天気や象徴などの情景描写⇒天候の変化で心情の変化を示したりシンボルによって暗示する。

「泣きそうになりながら思う」「ふっとほほえみ」「えがおを作った」この間にある相反する感情にさいなまれながら、最終太一のとった行動は「もりの刃先をどける」であった。「泣く」と「笑う」二つの相反する表情の間で葛藤する心情をこれまでの学習を絡めながら豊かに想像させる。

※想像したことを文章で表現させ、交流を通してさらに広く深く情景描写を登場人物の心情と捉え読ませる。

平成29年度 京都府学力診断テスト（小学校4年生 算数科）
「正答率の低い」典型的な問題例

問題11 「数と計算 技能」（基礎基本）

- 11 1220 - 276 を筆算でするとき、①②③の順じゅんに考えます。筆算の考え方の
あ にあてはまる数はどれですか。あとのタ～テからえらびなさい。

$$\begin{array}{r}
 1220 \\
 - 276 \\
 \hline
 \square 44 \\
 \begin{array}{ccc}
 \uparrow & \uparrow & \uparrow \\
 \textcircled{3} & \textcircled{2} & \textcircled{1}
 \end{array}
 \end{array}$$

筆算の考え方

- | | | |
|---|----------------------------|--------|
| ① | 一の位 <small>くわい</small> の計算 | 10 - 6 |
| ② | 十の位の計算 | 11 - 7 |
| ③ | 百の位の計算 | あ - 2 |

(タ 2 チ 9 ツ 11 テ 12)

◇出題の趣旨

3位数や4位数の加法及び減法の計算の仕方を考え、それらの計算が2位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、それらの筆算に仕方について理解すること。

◇学習の時期と啓林館における教科書ページ

○2年生（5月・9月）…「たし算とひき算のひっ算」上P42～57、
上P92～107

○3年生（6月）…「たし算とひき算のひっ算」上P52～66

◇正答数

精華町 45.9%（京都府 41.6%）

◇正答（選択肢）

ツ

○解答・誤答について

タ	誤答：16.9%	百の位から十の位への繰り下がり忘れ、そのまま2-2ができると考えている。
チ	誤答：26.8%	③の口に入る数を答えている。
ツ	正答：45.9%	正答
テ	誤答：10.4%	百の位から十の位への繰り下がり忘れ、千の位も合わせて12-2と考えている。
	無解答：0.5%	
	複数解答：0%	

○授業改善のポイント



計算棒の操作や、挿絵等を使った計算方法の説明活動を通して、繰り下がりのある引き算の意味理解を深めさせる。また、補助数を書き込ませることで、繰り下がりを意識して計算をさせる。

【2年上P100、(百何十何) - (2位数) で、繰り下がりが2回の筆算】

【3年上P62、(3位数) - (3位数) で、繰り下がりが2回の筆算】

3 142-83をひっ算でしてみましょう。

	1	4	2
-		8	3

一のくらいも
十のくらいも
ひけないから……

一のくらいは
十のくらいから
1くり下げて 12
12-3=9

十のくらいは
百のくらいから
1くり下げて 13
13-8=5

	1	4	2
-		8	3
		9	
		5	9

7 321-185の筆算のしかたを考えましょう。

	3	2	1
-	1	8	5

一の位も十の位も
くり下がりがあるね。

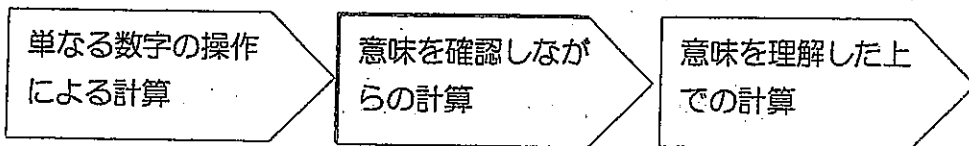
	3	2	1
-	1	8	5
			6
		3	6

	3	2	1
-	1	8	5
			6
		1	6

【授業改善の具体的方策】

①挿絵を使い、視覚的なアプローチから計算の意味を理解させる。その上で、計算の仕方を説明する活動を仕組むことで、単なる数字の操作から意味理解の伴った計算へとつなげていく。

(対話的な学びを活用し、深い学びへとつなげる)

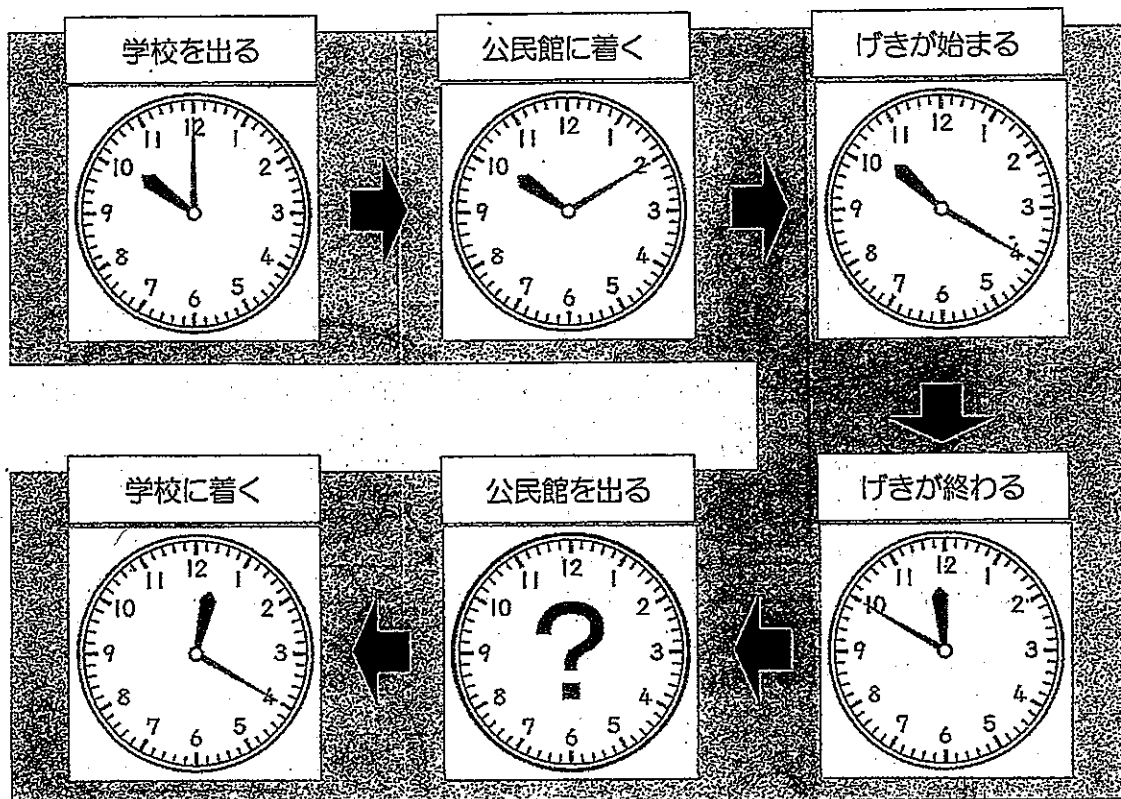


②補助数を書き入れさせることで、繰り下がりを意識させる。児童には、「計算ミスや勘違いを防ぐことができる」という良さを伝え、正確な計算をするための有効な手段として必ず行わせる。

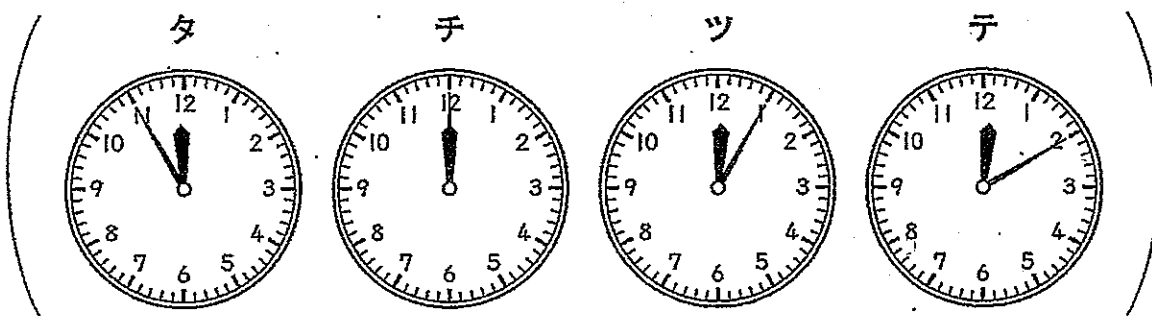
③今回の学力テストの問題を、まとめの問題として活用する。様々な角度からアプローチすることで、児童の思考を揺さぶり、そのことを通して理解を定着させていく。

問題16 「量と測定 数学的な考え方」(基礎基本)

16 下の時計は、かなさんが学年で公民館^{こうみんかん}にげきをみに行ったとき、学校を出てから学校にもどるまでの時こくを表したものです。公民館に着いてから公民館を出るまでの時間は1時間55分でした。



かなさんが公民館を出た時こくを表す時計は、どれですか。



◇出題の趣旨

日常生活で必要となる時刻や時間を求めること。

◇学習の時期と啓林館における教科書ページ

3年生(9月)・・・「時間と長さ」上P88~99

◇正答数

精華町 47.3%(京都府 41.3%)

◇正答(選択肢)

ツ

○解答・誤答について

タ	誤答：15. 5%	学校を出てから1時間55分と考えている。
チ	誤答：14. 7%	公民館に着いてからげきが始まるまでの時間が10分であるため、げきが終わった11:50の10分後を考えている。
ツ	正答：47. 3%	正答
テ	誤答：21. 9%	学校を出てから公民館に着くまでの時間が10分であるため、学校に着いた12:20の10分前を考えている。
	無解答： 1%	
	複数解答： 0%	

○指導改善のポイント



時間という量は、直接見ることでできない概念であるので、日常生活での具体的な場面を取り上げて、時刻を確かめたり、時間を調べたりして、時間の経過をつかむことができるように指導する。

【3年上P93、時間から時刻を求める問題（基礎）】

4 たいきさんたちは、9時45分に公園を出て、25分歩いて公みん館に着きました。
公みん館に着いた時こくは何時何分ですか。

【あて】 時こくのもとめ方を考えよう。

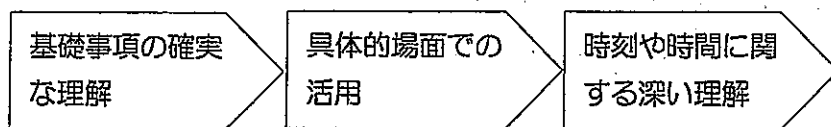


問題16のような、複数の時刻を示した活用問題につなげていくことで、理解の深化を図る。

【授業改善の具体的方策】

①まずは、教科書の問題を使って、時刻を求める方法を理解させる。その上で、校区巡りや校外学習などの身近な題材を取り上げ、本題のようないくつかの時刻が示されている問いに取り組ませる。

(既習事項を活用し、理解の深化を図る)

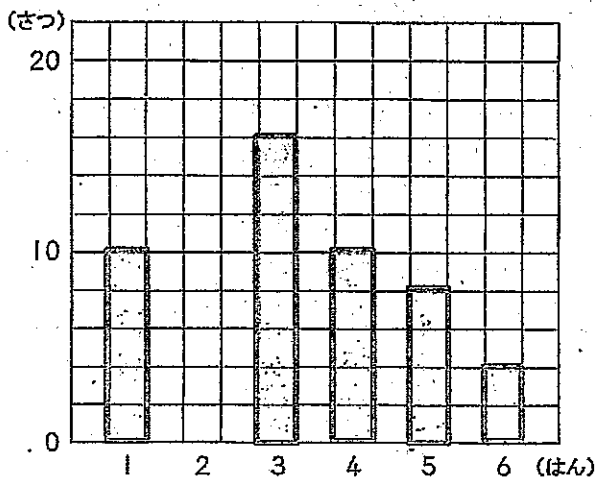


②実際の学校生活で、意識的に時刻や時間について児童に問うことで、定着を図る。(トレーニング)

(2) **グラフ2** は、読書週間の2週目に読んだ本の数をはんごとに表したものです。この **グラフ2** と **グラフ1** を比べて、2週目に6ぱんが読んだ本の数は、1週目に6ぱんが読んだ本の数の何倍かを考えます。どのような式でもとめられますか。あとのア～エからえらびなさい。

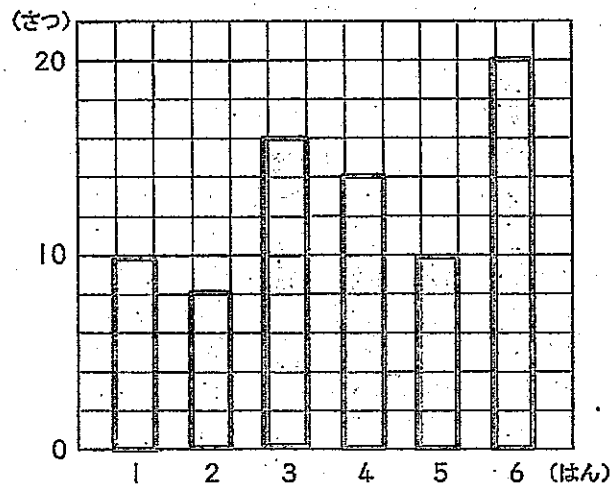
グラフ1

読書週間の1週目に読んだ本の数



グラフ2

読書週間の2週目に読んだ本の数



- | | | | | |
|---|---|---------------|---|---------------|
| (| ア | 20×2 | イ | 20×4 |
| | ウ | $20 \div 2$ | エ | $20 \div 4$ |

◇出題の趣旨

除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができるようにする。

◇学習の時期と啓林館における教科書ページ

3年生(4月) … 「わり算」上P15～31

3年生(10月上旬) … 「かくれた数はいくつ(2)」上P110～112

3年生(10月下旬) … 「何倍でしょう」下P14～15

3年生(1月) … 「表とグラフ」下P64～73

◇正答数

精華町 43.8% (京都府 41.3%)

◇正答(選択肢)

エ

平成29年度 京都府学力診断テスト（中学校1年生数学科〈算数科〉）

「正答率の低い」典型的な問題例

問題16 「量と測定 数学的な考え方」（基礎・基本）

16 下の表は、列車の発着時刻を表した表の一部です。「列車3号」のA駅、C駅間の時速を求め、答えとして正しいものを、あとのア～エから1つ選びなさい。ただし、列車は同じ速度で走るものとします。

京都駅からの きより		列車3号	列車5号
290km	A駅発	9時10分	9時40分
370km	B駅着 B駅発	レ	10 50 10 51
410km	C駅着	10 40	11 30

*レは、通過を表す。

- ア 時速80km イ 時速90km
ウ 時速120km エ 時速180km

◇出題の趣旨

距離と時間を示す表から必要な情報を取り出し、速さを求めることができる。

◇学習時期と啓林館における教科書ページ

6年生 9月下旬 教科書P116～125

◇学習指導要領の領域・内容 「量と測定 数学的な考え方」（基礎・基本）

◇正答率 精華町 30.1%（京都府30.1%）

◇正答 ア

○ 解答について

時速を出すためには、距離（道のり）÷時間で求めることができる。A 駅から C 駅の時速を出すためには、まず、距離を $410\text{km} - 290\text{km} = 120\text{km}$ と計算する。

次にかかった時間を 10 時 40 分から 9 時 10 分を引き、1 時間 30 分と計算する。

30 分は $30 \div 60 = 1/2$ 時間となるので、1 時間 30 分 = $3/2$ 時間となる。

このことから時速は、 $120 \div 3/2 = 80$ となり、時速 80 km となる。

(式) $(410 - 290) \div 3/2 = 80$ 時速 80 km となる。

○ 誤答分析

●イ (18.9%)

かかった時間を時速としている。

●ウ (36.0%)

移動した距離を時速としている。

●エ (12.4%)

90 分を 1.5 時間に換算し、距離 $\times 1.5$ と計算して時速を求めようとしている。

●無解答 (5.3%)

誤答の分析から、距離と時間を示す表から必要な情報を取り出すことができていないことが分かる。また、「速さ」は「進んだ道のり」と「時間」に関わっていることを捉え、「単位量あたり」の学習を活かして考えていくことが大切である。「速さ」を「単位時間に進んだ道のり」と考え、時速、分速、秒速として理解させることが必要だと考える。「単位時間あたり」を捉えるためには、数直線図を活用し、その意味を理解させ、生活の中で具体的な場面を挙げて量を比較する活動を取り入れるなどの工夫が大切だと考える。問題解決後には、何に着目して考えると解決できたのかを話し合う、振り返る場面を設定することも効果があると考えられる。

指導のポイント



- ① 数直線を用いて立式の根拠を明らかにしたり、その式が何を求めているのか式の意味を考えたりさせる。
- ② 比較検討場面において、他の児童の考えを説明したり、図(数直線など)を言葉や式で表したり、式を言葉や図で表すなど、図や式、言葉を関連付けたりする工夫を取り入れる。
- ③ 生活の中で具体的な場面を挙げて量を比較する活動を取り入れる。
- ④ 問題解決後には、何に着目して考えると解決できたのかを話し合う、振り返る場面を設定する。
- ⑤ 必要な情報を読み取る力をつけるために、教科書の単元の問題だけでなく活用できる課題を与えたり、自分で問題を作ったりさせる。

8. 速さ

第3時 板書例

20

距離と時間を示す表から必要な情報を取り出すことができるようにする。

①数直線を用いて立式の根拠を明らかにしたり、その式が何を求めているのか式の意味を考えたりさせる。

31 Aの自動車は150kmを2時間、Bの自動車は240kmを3時間で走り出した。AとBの自動車はどちらが速いのか。

時間あたりに走る道のりを比べよう。

自動車	距離 (km)	時間 (時間)
A	150	2
B	240	3

Aの自動車: $150 \div 2 = 75$ (1時間あたり75km)
 Bの自動車: $240 \div 3 = 80$ (1時間あたり80km)

Bの自動車の方が速い。

問題作り

②比較検討場面において、他の児童の考えを説明したり、図(数直線など)を言葉や式で表す、式を言葉や図で表すなど、図や式、言葉を関連付けたりする工夫を取り入れる。

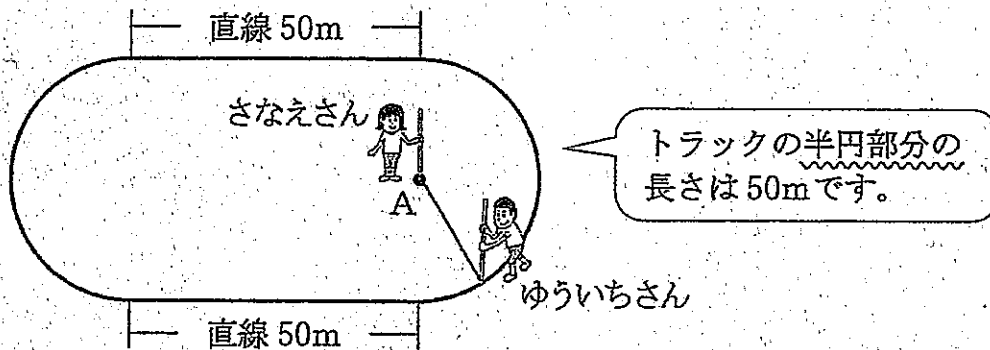
③生活の中で具体的な場면을挙げて量を比較する活動を取り入れる。

④問題解決後には、何に着目して考えると解決できたのかを話し合う、振り返る場面を設定する。

⑤必要な情報を読み取る力を付けるために、教科書の単元の問題だけでなく活用できる課題を与えたり、自分で問題を作ったりさせる。

問題19 「図形 数学的な考え方」(活用)

- 19 さなえさんとゆういちさんは、下の図のように運動場に一周200mのトラックの線をかいています。直線部分は50mで、半円部分も50mです。ロープを使って半円部分の長さ50mをかくとき、さなえさんがおさえているくいの位置Aと、ゆういちさんがかいた線とのきよりは約何mになりますか。答えとして正しいものを、あとのア～エから1つ選びなさい。



- ア 約8m イ 約16m ウ 約32m エ 約50m

◇出題の趣旨

円周と半径の関係に着目して、問題を解決することができる。

◇学習時期と啓林館における教科書ページ

5年生 2月上旬 教科書P186～198

◇学習指導要領の領域・内容 「図形 数学的な考え方」(活用)

◇正答率 精華町 41.0% (京都府35.9%)

◇正答 イ

○ 解答について

(式) <解答1> トラック半円部分の長さから半径を出す方法

円周の求め方は、直径×3.14=円周となる。

トラックの半円部分の長さが50mなので、まず、直径×3.14÷2=50と式を立てる。しかし、さなえさんからゆういちさんの位置までの長さは、半円の直径ではなく、半径となっているので、半径×2×3.14÷2=50となる。

半径×3.14=50なので

$$\text{半径} = 50 \div 3.14$$

半径=15.92... となり、約16mとなる。

《解答2》 円周と直線部分の長さに分けて考え、半径を出す方法

トラック1周の長さは200mで、直線部分の長さは $50\text{m} \times 2 = 100\text{m}$ となることから、円周は $200 - 100 = 100\text{m}$ となる。

円周は、直径 $\times 3.14 = 100$ なので

$$\text{直径} = 100 \div 3.14$$

$$\text{直径} = 31.84\dots$$

このことから、半径 $= 31.84 \div 2$

$$\text{半径} = 15.92\dots \text{となり、約}16\text{m} \text{となる。}$$

○ 誤答分析

● ア (6.5%)

半円の長さが50mなのに、円周の長さを50mと捉えている。

● ウ (28.9%)

ロープの長さは円の半径に当たるのに、円の直径部分と捉えている。

● エ (21.5%)

半径と円周に着目せずに考えている。

● 無解答 (4.7%)

この問題では問題文が長い上に、トラック1周200m、直線部分50m、半円部分50m、求める距離は半円部分の半径という情報があり、必要な情報を読み取る力が必要になる。様々な文章問題を繰り返し練習することで、「この問題では何を問われていてどの値を使えば解けるのか」という読む力を養うことが大切だと考える。また、直径と円周の関係を、具体物を使って調べて円周率の意味を知り、円周は直径の約3.14倍になっていることを理解させることが大切である。円周から円の直径を求める問題は教科書で何度も学習するが、円の半径を求める学習経験は少ない。そのため、様々な直径や半径、円周を求める問題に取り組みさせる必要があると考える。その時に、算数の中でしか出てこない言い回し「上から2けたの概数で求めましょう」などに慣れさせ、文章を読む抵抗感を軽減させることが必要だと考える。

指導のポイント



- ① 図形についての観察や構成などの活動を通して、実感的に理解できるようにする。
- ② 既習事項を基に、何に着目すれば解決できるかを考えさせたり、解き方を説明させたりする場面を設定する。
- ③ 必要な情報を読み取る力をつけるために、教科書の単元の問題だけでなく活用できる課題を与える。

14. 円と正多角形

p.196

第7時 板書例

円周なのか円の直径を求めるのか、必要な情報を取り出し、計算することができるようにする。

③ グラウンドに直径6mの円をかきたいと思います。まわりの長さは、何mになりますか。

④ 円周の求め方を考えよう。

直径 $\times 3.14$ = 円周

6m $\times 3.14$ = 18.84m

式 $6 \times 3.14 = 18.84$

④ $2 \times 3.14 = 6.28$

⑤ 円の形をした池のまわりの長さをはかったら、47mありました。この池の直径は、約何mですか。上から2けたの概数で答えましょう。

直径 $\times 3.14$ = 円周

2m $\times 3.14$ = 6.28m

⑥ $20 \div 3.14 = 6.3$

⑦ 円周率を使うと、円周や直径を求めることができる。

調べるもの	円周	直径
木の幹	2.3m	約0.73m

① 図形についての観察や構成などの活動を通して、実感的に理解できるようにする。

② 既習事項を基に、何に着目すれば解決できるかを考えさせたり、式や図、関係図などを使って、解き方を説明させたりする場面を設定する。

③ 必要な情報を読み取る力をつけるために、教科書の単元の問題だけでなく活用できる課題を与える。その時に、算数の中でしか出てこない言い回し「上から2けたの概数で求めましょう」などに慣れさせ、文章を読む抵抗感を軽減させる。

問題23 「数量関係 技能」(基礎・基本)

23 友だちの家でコーヒーと牛乳を混ぜてつくったカフェ・オ・レを飲みました。友だちの家では、200mLのカフェ・オ・レをつくるのに、80mLのコーヒーを使っていました。

このとき、コーヒーと牛乳の割合を比で表したものを、次のア～エから1つ選びなさい。

ア 2:3

イ 3:2

ウ 2:5

エ 5:2

◇出題の趣旨

等しい比を求めることができる。

◇学習時期と啓林館における教科書ページ

6年生 6月下旬 教科書P76～89

◇学習指導要領の領域・内容 「数量関係 技能」(基礎:基本)

◇正答率 精華町 26.3% (京都府25.8%)

◇正答 ア

○ 解答について

(式) 200mLのカフェ・オ・レを作るのに、80mLのコーヒーを使っていたので、コーヒーと牛乳の割合を考えると、牛乳は $200\text{mL} - 80\text{mL} = 120\text{mL}$ となる。このことから、 $\text{コーヒー}:\text{牛乳} = 80:120$ となる。

簡単な比にするために、比の値を $80 \div 120 = 2/3$ と考え、 $\text{コーヒー}:\text{牛乳} = 2:3$ と考える。もしくは、 $80:120$ の比を最大公約数の40で割って $2:3$ と考える。

○ 誤答分析について

●イ (12.1%)

牛乳の量とコーヒーの量の割合を比で表わしている。

●ウ (10.3%)

コーヒーの量と全体量の割合を比で表わしている。

●エ (46.9%)

全体量とコーヒーの量の割合を比で表わしている。

●無解答 (7.1%)

比について、教科書では酢とサラダ油でドレッシングを作る場面から比の意味と表し方について学習する。日常生活には比が用いられる事象がたくさんあり、それらを探したり、活用して物事を処理したりするような活動を取り入れることが必要である。比(割合)のつまずきポイントとして、「もとにする量」と「比べる量」がどれか分からないことが考えられる。比を使った問題では、比べる量やもとにする量を求める場合や、部分と部分の比と全体の数量が分かっている場合に、それぞれの部分に当たる数量を求める場合がある。この二つが混同することがあるため、比を考える時には数直線などの図を書いて考えると理解しやすいと思われる。また、答えに対してある程度の見通しを持つことも必要になる。選択の幅が絞られてくるので、計算の前に見当を付ける学習を取り入れることも効果があると考えられる。比を簡単にするときは、二つの数を最大公約数で割るか、比の値を利用して考えることを押さえておくことが必要である。

指導のポイント



- ① 日常生活の中に用いられている比を探したり、それらを活用して物事を処理したりするような活動を取り入れる。
- ② 比を考える時には数直線などの図を書いて考え、「もとにする量」と「比べられる量」を理解させる。
- ③ 計算の前に見当を付ける学習を取り入れる。
- ④ 比を簡単にするときには、二つの数を最大公約数で割るか、比の値を利用して考えることを押さえる。

改善に向けての指導アイデア例 <啓林館「わくわく算数」6年 P87、88>

6. 比とそ

第8時 板書例

p.87

② 比べる量やもとにする量を求める場合や、部分と部分の比と全体の数量が分かっている場合に、それぞれの部分に当たる数量を求める場合がある。この二つが混同する児童がいるため、比を考える時には数直線などの図を書いて考える。

③ 計算の前に見当を付ける学習を取り入れる。

① 砂糖と小麦粉の量の比を2:5にしてケーキをつくります。

小麦粉を150gにすると、砂糖は何g入りますか。

比はわかっているが、求める量がわからない。
一方の量は、わかっている。
比と一方の量から、もう一方の量を求められるといい。

② 砂糖を100gにすると、小麦粉は何g入りますか。

比と、それぞれの量の関係を線分図で表してみる。
比の値を求めて。

① 比の1つ分の量を求める考え方
 $150 \div 5 = 30$
 (比の1つ分の量)
 $30 \times 2 = 60$
 (1つ分の量の2倍)
 60g

② 比の値を利用する考え方
 $2:5$ の比の値は $\frac{2}{5}$
 $150 \times \frac{2}{5} = 60$
 60g

① $100 \div 2 = 50$
 $50 \times 5 = 250$
 250g

② $12 \div 3 = 4$ $4 \times 5 = 20$ 20m
 または、 $12 \times \frac{5}{3} = 20$ 20m

$15 \div 5 = 3$ $3 \times 3 = 9$ 9m
 または、 $15 \times \frac{3}{5} = 9$ 9m

② もとにする量が砂糖になるので、小麦粉:砂糖=5:2
 比の値 $\frac{5}{2}$
 $100 \times \frac{5}{2} = 250$
 250g

③ 比の1つ分を求めたり、比の値になおしたりすれば、比と一方の量からもう一方の量が求められる。

① 日常生活の中に用いられている比を探したり、それらを活用して物事を処理したりするような活動を取り入れる。

④ 比を簡単にするときには、二つの数を最大公約数で割るか、比の値を利用して考える。

8 診断テストの成果と今後の方向性

(1) 成果

- ① 度数分布表で得点49点未満の児童を見ると精華町は京都府・山城局と比較して、基礎学力の未定着児童（成績下位群）の割合が少ない。
全体的に、基礎学力の充実・向上・定着が図られてきている。（「習得型」学力の定着）
- ② 思考力・判断力・表現力という「活用型」の学力が、京都府・山城局の平均値と比較しても相対的に高いのが特徴である。
問題解決的な学習や体験的な活動などと言語活動を連動させた「授業改善」の取組の充実が図られてきているからであろう。但し、正答率から見ればまだまだ十分だとは言えず、「授業の質」の充実が求められる。
- ③ 経年比較をして、平成26年度に4年生の児童が平成29年度は中学校1年生となり、府学力診断テストの結果は良好な結果であった。4年、5年、6年と3年間で、課題を整理し、分析をして授業改善をし、授業にいかすよう実践した成果であると考えられる。

(2) 今後の方向性

① 全体

ア 基礎・基本の定着

小中連携の視点での結果の活用を効果的に行い、小中9年間を通した学びの連続性を重視し、組織的な授業改善や一人一人を大切にした指導の充実を図る。

イ 主体的・対話的で深い学びの充実

見通しを立てて、主体的・対話的に課題の発見・解決に取り組み、振り返る学習過程を大切にし、学びを深める指導方法を改善する。

ウ 「実質的な習熟度別」授業を展開する（国語科・算数科などで）。

個々の児童の定着度の確認と各コースのねらい・役割を明確にして、児童の希望と担当者の指導性を大切にしながら、補充的な学習内容や発展的な学習内容も取り入れた少人数授業を進める。

エ 学習習慣の定着

予習・復習を中心とした主体的な学習習慣が身に付くように、取組を充実、推進させる。

オ 言語活動の充実

- 「言語力の育成」を大切にして、各教科・領域等の役割を押さえた取組を組織的・計画的・日常的に進める。
- 発表する機会や話し合う活動を増やし、言語活動を充実させる。

カ 「ユニバーサルデザイン」の視点での授業を展開する。（どの子にもわかりやすい授業）

キ 周囲からの温かい愛情や信頼、期待を感じさせることにより、「包み込まれているという感覚」をはぐくみ、自己有用感を高めるようにする。

ク 携帯電話やスマートフォンの正しい使い方・

携帯電話やスマートフォンに潜む危険性や正しい使い方等について、児童生徒への理を深めるとともに保護者への啓発を図る。

② 国語科

- 4年「読むこと」で文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くことに課題がある。(五の四) 府 38.3% 町 41.8%

(授業改善のポイント)

文学的な文章の問題については、フィクション(虚構)による世界が描かれている物語を読み感想を述べる問題である。文学的な文章の読みについては、叙述を基に、それぞれの登場人物の性格や状況を把握し、場面や状況の移り変わりとともに変化する気持ちについて、地の文、行動、会話などから関連的に捉えていくような授業の展開が必要である。

- 中1年「読むこと」で本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることに課題がある。

(三の四) 府 17.2% 町 17.1%

(授業改善のポイント)

音読をするために必要感をもって文章を読む。音読するためには、登場人物の人物像や相互関係を捉えること、また心情や場面についての描写を捉えることが必要となる。まずは文章をしっかりと読んでから、最後に音読する学習とを相互に関連付けて単元を構想していくことが重要である。音読の表現力を高めるために、文章の内容や表現に戻って繰り返し読むというように、生徒自身が目的意識や必要感をもって学習に臨むことができるような単元を構想していきたい。

③ 算数科

- 4年「数と計算 技能」で、3位数や4位数の加法及び減法の計算の仕方を考え、それらの計算が2位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、それらの筆算の仕方について理解することに課題がある。

(11) 府 41.6% 町 45.9%

(授業改善のポイント)

計算棒の操作や、挿絵等を使った計算方法の説明活動を通して、繰り下がりのある引き算をさせる。また、補助数を書き込ませることで、繰り下がりを意識して計算をさせる。単なる数字の操作から意味理解のともなった計算へとつなげていく。

- 中1年「量と測定 数学的な考え方」で、距離と時間を示す表から必要な情報を取り出し、速さを求めることができる問題について課題がある。

(16) 府 30.1% 町 30.1%

(授業改善のポイント)

- ・数直線を用いて立式の根拠を明らかにしたり、その式が何を求めているのか式の意味を考えたりさせる。
- ・比較検討場面において、他の児童の考えを説明したり、図(数直線など)を言葉や式で表したり、式を言葉や図で表すなど図や式、言葉に関連付けたりする工夫を取り入れる。
- ・生活の中で具体的な場面をあげて量を比較する活動を取り入れる。
- ・問題解決後には、何に着目して考えると解決できたのかを話し合う振り返る場面を設定する。

中 1 質問紙調査から見えてくるもの…

京都府学力診断テストでは、国語・算数の学力調査に加えて、49 項目からなる質問紙調査が実施されている。質問内容は国語や算数の学習内容に関することをはじめ、読書、家庭での生活習慣や学習習慣に関すること、また、自らの将来への展望や規範意識に関することなど多岐に及ぶ。

精華町の中学校 1 年生生徒がこれらの質問にどう答えたのかを把握・分析することで、授業改善にとどまらず、豊かな人間性の育成、基本的な生活習慣や学習習慣の確立に向けた取組、また、よりよい家庭との連携の在り方など、総合的に学力を向上させる効果的な取組に繋げたい。

49 項目の質問から以下の 10 問をピックアップする。

① 授業中の発表機会

(質問 1)「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていた。」

② 話し合い活動

(質問 2)「授業では、みんなで話し合う活動をよく行っていた。」

③ めあての提示

(質問 3)「授業の中で目標 (めあて・ねらい) が示されていた。」

④ 振り返り活動

(質問 4)「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた。」

⑤ 算数 絵や図、ことばの式の活用

(質問 13)「算数の授業で、自分で問題をとくとき、絵や図、ことばの式を使って考えていた。」

⑥ 学校以外での学習時間

(質問 21)「学校の授業時間以外に、ふだん (月曜日から金曜日)、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾などで勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間もふくみます。)」

⑦ 学校以外での読書時間

(質問 23)「学校の授業時間以外に、ふだん (月曜日から金曜日)、1 日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。(教科書や参考書、まんがやざっしはのぞきます。)」

⑧ 自分の考え・意見の発表

(質問 34)「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。」

⑨ 他者の話を最後まで聞く

(質問 35)「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。」

⑩ 「自分の良さ」を感じているか。

(質問 47)「自分には、よいところがあると思う。」

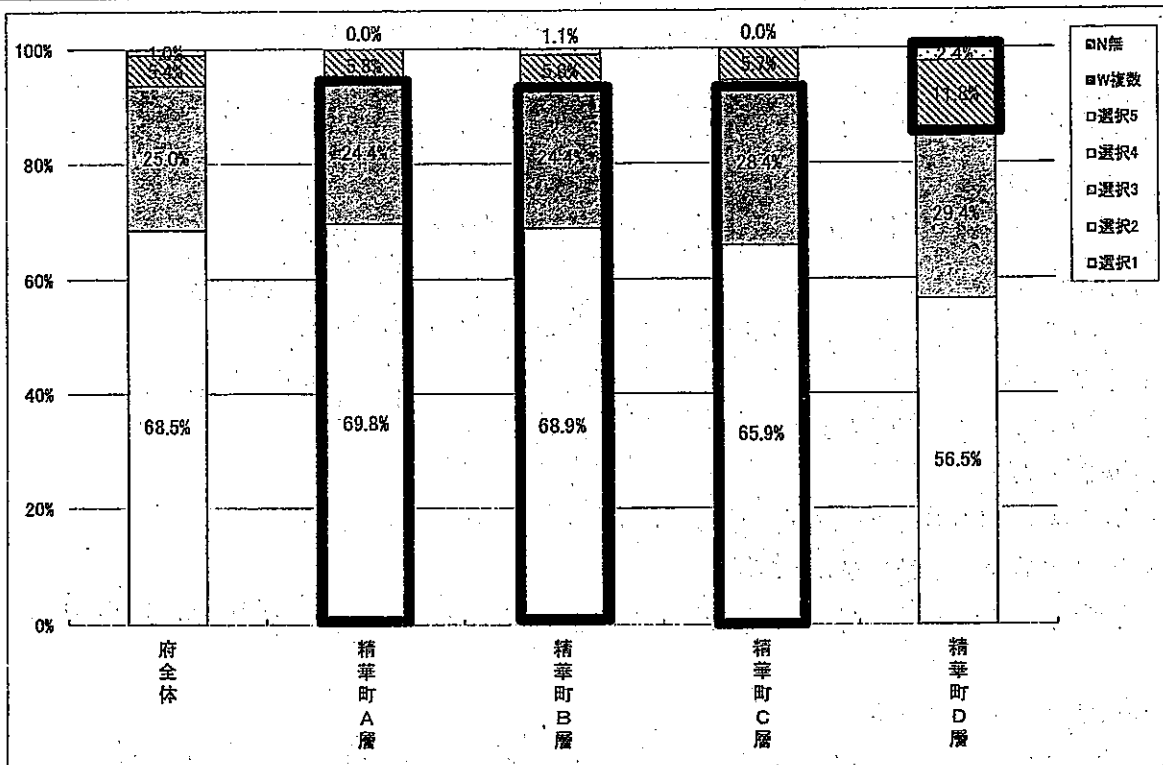
国語・算数の 2 教科合計の正答率をもとに、精華町全児童を A 層から D 層の 4 つの学力層に分け、各層でそれぞれの質問にどう答えているかをクロス集計しグラフ化、相関関係を探る。

質問紙にどう答えたかで、児童生徒の状況が見えてきます。
学力の基盤となる生活の状況や児童生徒の意識を分析してみよう!



①授業中の発表機会

質問1	授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていた	
選択1	当てはまる	A～D層について 層は児童を国語と算数を合わせた正答数の多い順に並べ、人数比率により25%刻みで4つに分けています。 上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層と呼称しており、正答数が同じ場合には上位の層に含んでいます。
選択2	どちらかといえば、当てはまる	
選択3	どちらかといえば、当てはまらない	
選択4	当てはまらない	



項目	人数								割合						
	全	選択1	選択2	選択3	選択4	選択5	W複数	N無	選択1	選択2	選択3	選択4	選択5	W複数	N無
府全体	9539	6537	2384	516	99		0	3	68.5%	25.0%	5.4%	1.0%		0.0%	0.0%
精華町A層	86	60	21	5	0		0	0	69.8%	24.4%	5.8%	0.0%		0.0%	0.0%
精華町B層	90	62	22	5	1		0	0	68.9%	24.4%	5.6%	1.1%		0.0%	0.0%
精華町C層	88	58	25	5	0		0	0	65.9%	28.4%	5.7%	0.0%		0.0%	0.0%
精華町D層	85	48	25	10	2		0	0	56.5%	29.4%	11.8%	2.4%		0.0%	0.0%

A層～C層では、約94%の児童生徒が自分の考えを発表する機会を与えられていたと感じているのに対し、D層の児童生徒では、約14%の児童生徒が発表する機会を与えられたと感じていない。できる児童生徒で授業が進められている部分が示唆される。挙手している児童中心に授業を展開するだけでなく、時と場合に応じて、教師からランダムに発表を指名したり、児童同士で指名しあったりして発表の機会を工夫することで、緊張感のある授業を生み出すことができる。

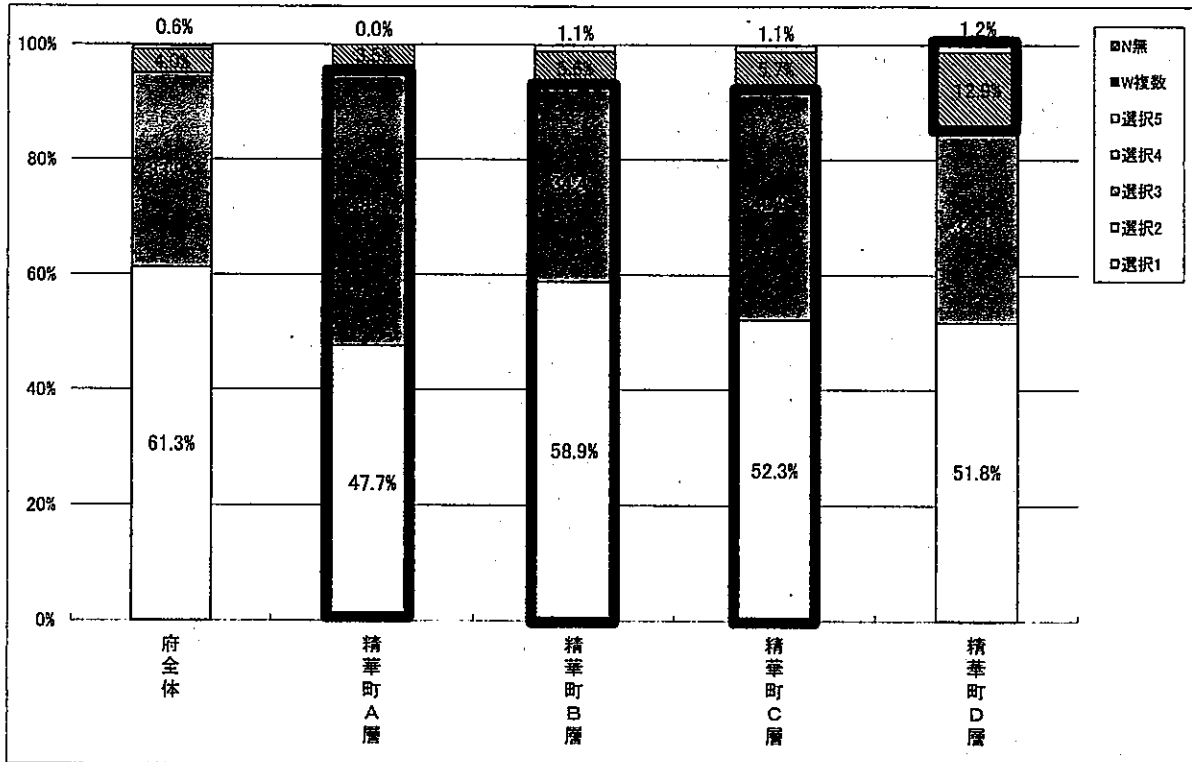
発表で学び合いを深めるには・・・

- ①最初に指名する児童生徒
 - ②深める発表をする児童生徒
 - ③ゆさぶる発表をする児童生徒
- 3人を、机間指導で見つけることがポイントです！**



②話し合い活動

質問2	授業では、みんなで話し合う活動をよく行っていた	
選択1	当てはまる	A～D層について 層は児童を国語と算数を合わせた正答数の多い順に並べ、人数比率により25%刻みで4つに分けています。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層と呼称しており、正答数が同じ場合には上位の層に含んでいます。
選択2	どちらかといえば、当てはまる	
選択3	どちらかといえば、当てはまらない	
選択4	当てはまらない	



項目	人数								割合							
	全	選択1	選択2	選択3	選択4	選択5	W複数	N無	選択1	選択2	選択3	選択4	選択5	W複数	N無	
府全体	9539	5846	3232	385	57		1	18	61.3%	33.9%	4.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.2%	
精華町A層	84	41	42	3	0		0	0	47.7%	48.8%	3.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
精華町B層	90	53	31	5	1		0	0	58.9%	34.4%	5.6%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	
精華町C層	88	46	36	5	1		0	0	52.3%	40.9%	5.7%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	
精華町D層	85	44	29	11	1		0	0	51.8%	34.1%	12.9%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	

A層の児童生徒は96.5%の児童生徒が「授業では、みんなで話し合う活動をよく行っていた。」と感じている。また、B層C層の児童生徒も約93%の児童生徒が話し合う活動を「よく行っていた」と感じている。しかし、D層の児童生徒は14.1%の児童生徒が話し合う活動を行っていたと感じていない。D層の児童が話し合い活動に参加できていなかったことが示唆される。話し合い活動の場の設定を、少人数にしたり、形態や編成を工夫したりすることで、学力下位層も話し合い活動に参加しやすくする授業改善が求められる。

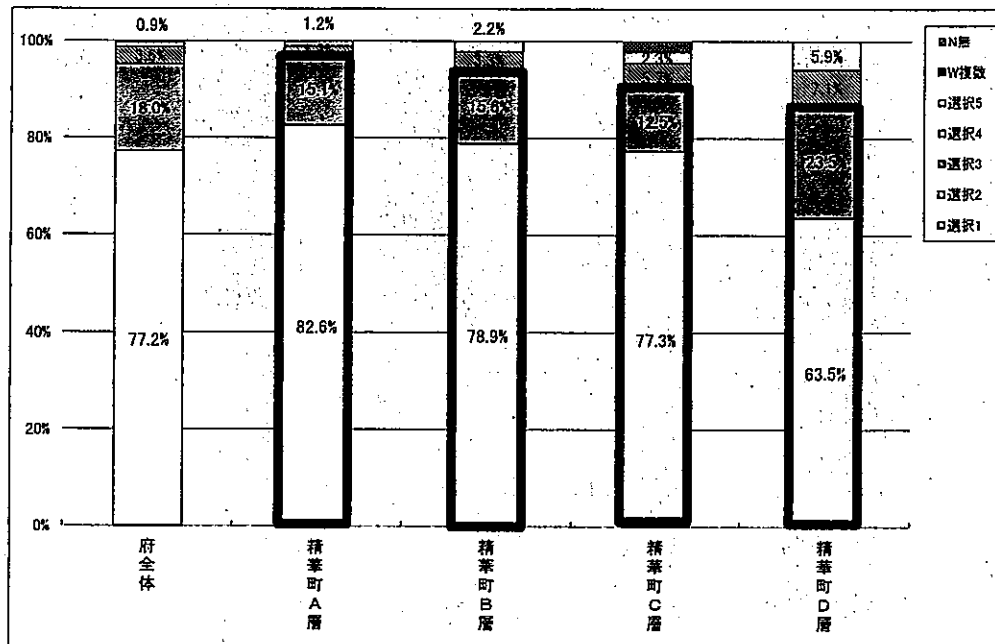
話し合い活動を充実させるために・・・

- ①コンパクトでインパクトのある導入
- ②必ず全員に、自分の考えを書かせる
- ③その気にさせる机間指導(ほめる・みとめる)
- ④話し合いを深める発問(教師の出番)
- ⑤効果的なふり返し



③めあての提示

質問3	授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていた	
選択1	当てはまる	A～D層について 層は児童を国語と算数を合わせた正答数の多い順に並べ、人数比率により25%刻みで4つに分けています。 上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層と呼称しており、正答数が同じ場合には上位の層に含んでいます。
選択2	どちらかといえば、当てはまる	
選択3	どちらかといえば、当てはまらない	
選択4	当てはまらない	



項目	人数							割合						
	全	選択1	選択2	選択3	選択4	選択5	W複数/N無	選択1	選択2	選択3	選択4	選択5	W複数	N無
府全体	9539	7363	1716	339	86		5 30	77.2%	18.0%	3.6%	0.9%	0.1%	0.3%	
精華町A層	86	71	13	1	1		0 0	82.6%	15.1%	1.2%	1.2%	0.0%	0.0%	
精華町B層	90	71	14	3	2		0 0	78.9%	15.6%	3.3%	2.2%	0.0%	0.0%	
精華町C層	88	68	11	5	2		0 2	77.3%	12.5%	5.7%	2.3%	0.0%	2.3%	
精華町D層	85	54	20	6	5		0 0	63.5%	23.5%	7.1%	5.9%	0.0%	0.0%	

A層の児童生徒の97.7%の児童生徒が「授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていた」と感じている。またB層では94.5%、C層では91.9%、D層では87%となっている。

この数値から、学力層が下位になるほど授業の中で「めあて」が示されていると感じていないことが示唆される。学校ごとに授業や板書、ノート指導などのパターン化、ユニバーサルデザイン化をしたり、「めあて」を毎時間声に出して確認したりすることで、どの児童も「めあて」を意識して授業に臨むことができると考えられる。

「めあて」とは…

○「ねらい」を児童生徒の立場で示したものです。

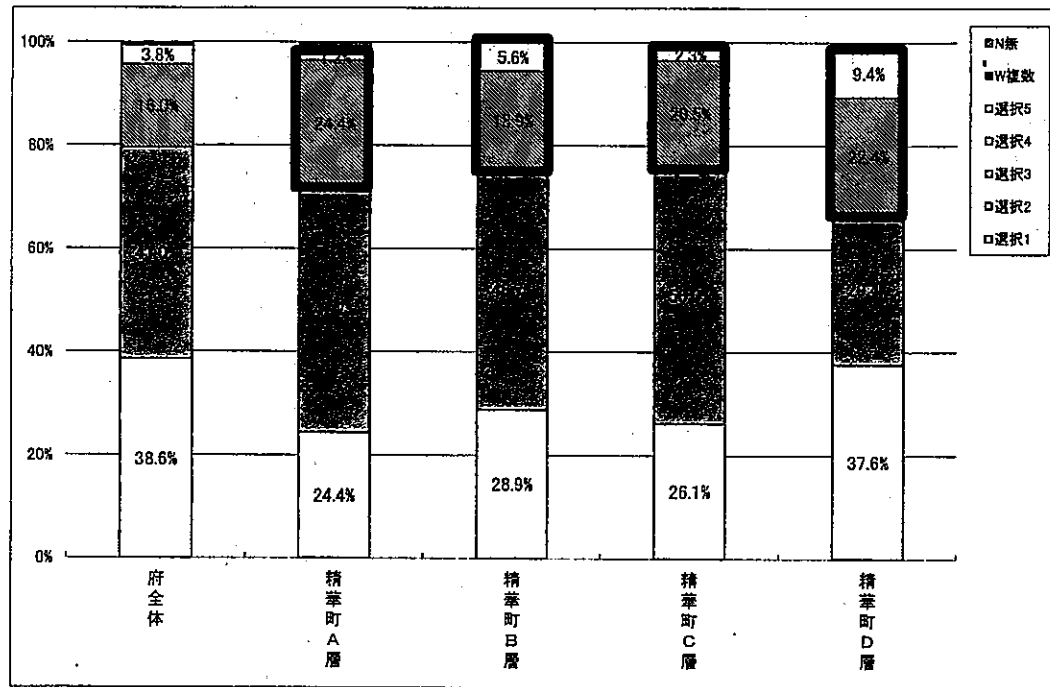
○付きたい力を身に付けさせるための、目指す「活動のゴールの姿」や「ゴールとそれまでの道筋」を示します。

※学習の見通しを持たせ、意欲を高めるものになるよう工夫しましょう!



④振り返り活動

質問4	授業の最後に学習内容をふり返る活動をよく行っていた	
選択1	当てはまる	A～D層について 層は児童を国語と算数を合わせた正答数の多い順に並べ、人数比率により25%刻みで4つに分けています。 上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層と呼称しており、正答数が同じ場合には上位の層に含んでいます。
選択2	どちらかといえば、当てはまる	
選択3	どちらかといえば、当てはまらない	
選択4	当てはまらない	
選択5		



項目	人数								割合							
	全	選択1	選択2	選択3	選択4	選択5	W複数	N無	選択1	選択2	選択3	選択4	選択5	W複数	N無	
府全体	9539	3684	3914	1528	358		8	47	38.6%	41.0%	16.0%	3.8%		0.1%	0.5%	
精華町A層	86	21	41	21	1		0	2	24.4%	47.7%	24.4%	1.2%		0.0%	2.3%	
精華町B層	90	26	42	17	5		0	0	28.9%	46.7%	18.9%	5.6%		0.0%	0.0%	
精華町C層	88	23	44	18	2		0	1	26.1%	50.0%	20.5%	2.3%		0.0%	1.1%	
精華町D層	85	32	25	19	8		0	1	37.6%	29.4%	22.4%	9.4%		0.0%	1.2%	

どの層においても似たような傾向が見られ、約20%～30%の児童が「授業の最後に学習内容をふり返る活動をよく行っていた」と感じていない。授業において、「めあて」は高い割合で提示されているのに対し、「振り返り」の割合が低いことから、授業が最後まで展開できていなかったり、時間配分が上手に配分できなかったりすることで「振り返り」ができていないことが示唆される。

「振り返り」とは…

- ☆児童生徒が自分の学習を自己評価すること
- ☆「めあて」と「まとめ・振り返り」が対になっていること
- ☆「振り返り」の内容を吟味し、指導改善に生かすこと

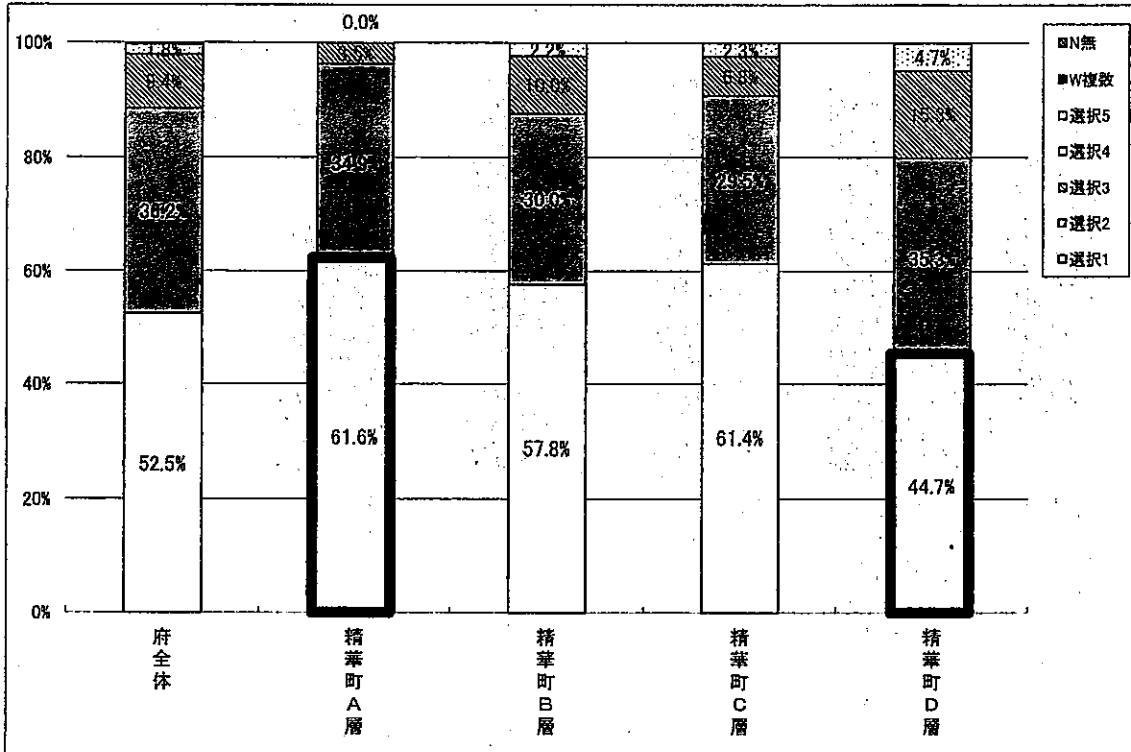
※記述内容を高めるためには、

教師からの評価と指導が重要！



⑤ 算数 絵や図、ことばの式の活用

質問13	算数の授業で、自分で問題をとくとき、絵や図、ことばや式を使って考えていた	
選択1	当てはまる	A～D層について 層は児童を国語と算数を合わせた正答数の多い順に並べ、人数比率により25%刻みで4つに分けています。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層と呼称しており、正答数が同じ場合には上位の層に含んでいます。
選択2	どちらかといえば、当てはまる	
選択3	どちらかといえば、当てはまらない	
選択4	当てはまらない	
選択5		



項目	人数								割合						
	全	選択1	選択2	選択3	選択4	選択5	W複数	N無	選択1	選択2	選択3	選択4	選択5	W複数	N無
府全体	9539	5008	3450	893	168		1	19	52.5%	36.2%	9.4%	1.8%	0.0%	0.0%	0.2%
精華町A層	86	53	30	3	0		0	0	61.6%	34.9%	3.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
精華町B層	90	52	27	9	2		0	0	57.8%	30.0%	10.0%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%
精華町C層	88	54	26	6	2		0	0	61.4%	29.5%	6.8%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%
精華町D層	85	38	30	13	4		0	0	44.7%	35.3%	15.3%	4.7%	0.0%	0.0%	0.0%

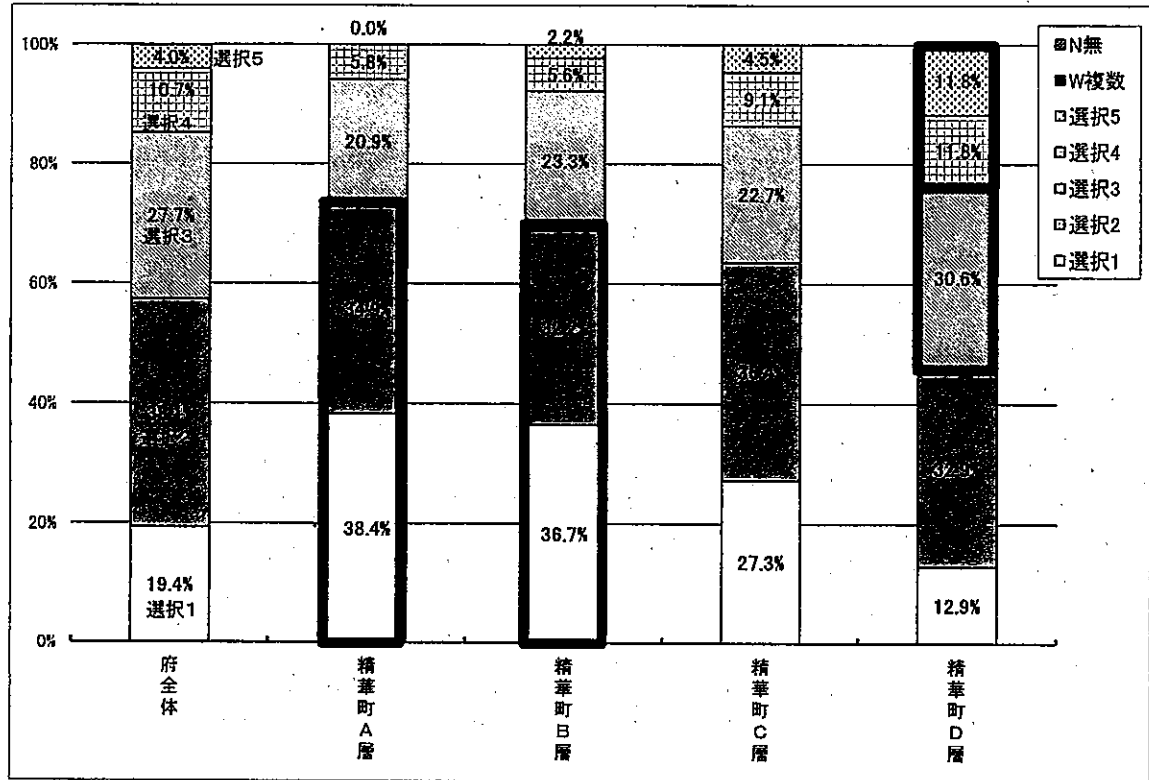
算数科の学習において「計算の意味や計算の仕方を、言葉、数、式、図を用いて考え、説明する活動」は、低学年から高学年にわたって繰り返し例示されており、重要な活動として位置づけられている。

中でも最も頻繁に用いられる図として、線分図・数直線があり、教科書でも繰り返し登場する。しかし、線分図・数直線をかいたり操作したりして考える児童は意外に少なく、本町でも「当てはまる」と答えている児童がA層が最多で61.6%で、D層では、44.7%となっている。線分図・数直線は、自然にかけるようになるものではなく、そこには系統的な指導が必要になる。低学年から系統的に「計算の意味や計算の仕方を絵や図、ことばの式を用いて考え、説明する活動」を取り入れていくことで、改善が図れると思われる。



⑥ 学校以外での学習時間

質問21	学校の授業時間以外に、ふだん(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾などで勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間もふくみます。)	
選択1	2時間以上	A～D層について 層は児童を国語と算数を合わせた正答数の多い順に並べ、人数比率により25%刻みで4つに分けています。 上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層と呼称しており、正答数が同じ場合には上位の層に含んでいます。
選択2	1時間以上、2時間より少ない	
選択3	30分以上、1時間より少ない	
選択4	30分より少ない	
選択5	全くしない	



項目	人数									割合						
	全	選択1	選択2	選択3	選択4	選択5	W複数	N無	選択1	選択2	選択3	選択4	選択5	W複数	N無	
府全体	9539	1846	3635	2646	1022	382	4	4	19.4%	38.1%	27.7%	10.7%	4.0%	0.0%	0.0%	
精華町A層	86	33	30	18	5	0	0	0	38.4%	34.9%	20.9%	5.8%	0.0%	0.0%		
精華町B層	90	33	29	21	5	2	0	0	36.7%	32.2%	23.3%	5.6%	2.2%	0.0%		
精華町C層	88	24	32	20	8	4	0	0	27.3%	36.4%	22.7%	9.1%	4.5%	0.0%		
精華町D層	85	11	28	26	10	10	0	0	12.9%	32.9%	30.6%	11.8%	11.8%	0.0%		

テスト結果の上位層ほど学校外での学習時間が長く、下位層ほど学習時間が短い傾向であることがわかる。

A層B層の児童生徒の約70%が1時間以上学習していると答えており、上位層の児童生徒については十分な学習時間が確保できているといえる。

逆にD層では54%の児童生徒が1時間より少ないと答え、特に23.6%の児童生徒が30分未満と答えており、学校外での学習習慣の確立が課題と思われる。

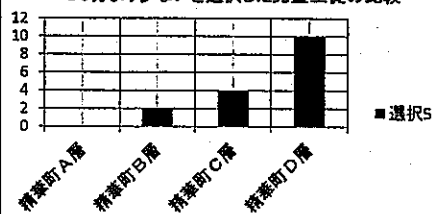
低学年のうちには習慣づけをメインに考え、机に向かうことができれば比較的内容はどのようなものであっても大丈夫です。しかし、高学年では、「学校だけでは不足してしまう部分を補う」「中学校に向けて、小学校の内容をしっかりと押さえておく」など家庭学習の意味がちがってきます。

家庭学習の時間を1日のうちいつするのかをしっかりときめておく、より習慣づけしやすくなるので、家庭学習週間などで、1日のスケジュールを作らせるのも習慣化に効果的です。

POINT

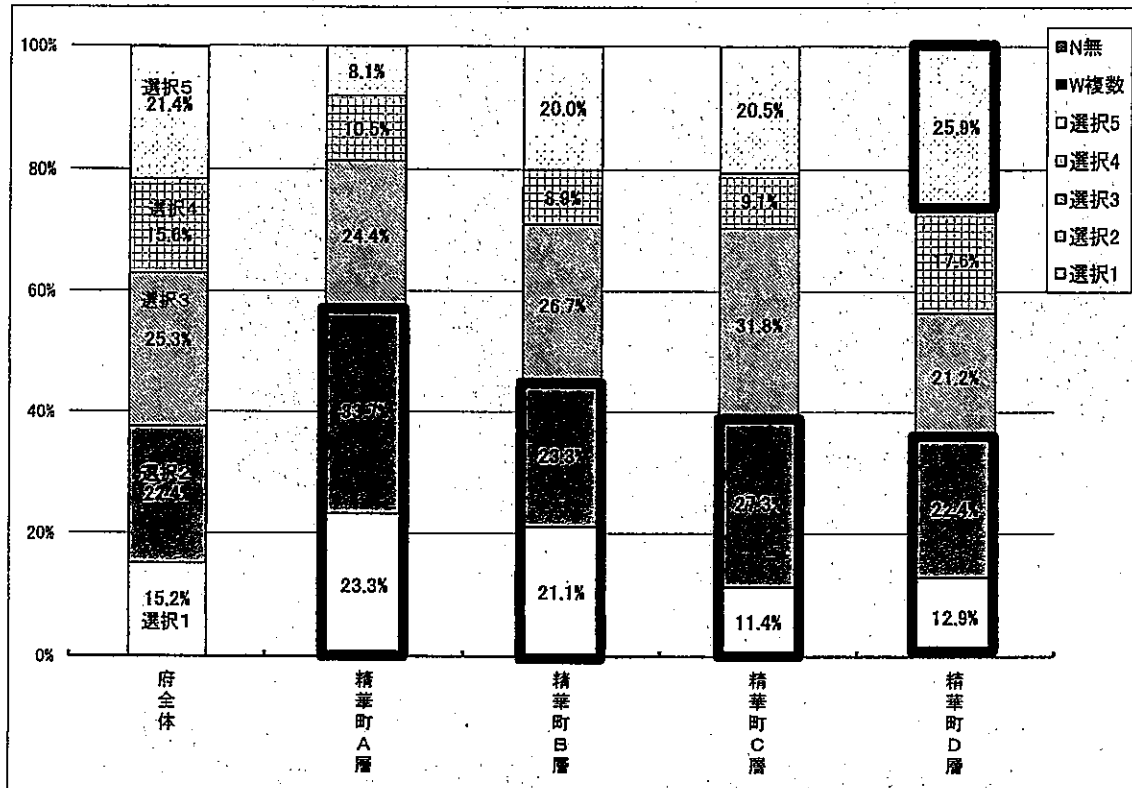


A層～D層での顕著な違いのある質問項目①
30分より少ないを選択した児童生徒の比較



⑦ 学校以外での読書時間

質問23	学校の授業時間以外に、ふだん(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。(教科書や参考書、まんがやざっしはのぞきます。)	
選択1	1時間以上	A～D層について 層は児童を国語と算数を合わせた正答数の多い順に並べ、人数比率により25%刻みで4つに分けています。 上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層と呼称しており、正答数が同じ場合には上位の層に含んでいます。
選択2	30分以上、1時間より少ない	
選択3	10分以上、30分より少ない	
選択4	10分より少ない	
選択5	全くしない	



項目	人数									割合						
	全	選択1	選択2	選択3	選択4	選択5	W複数	N無		選択1	選択2	選択3	選択4	選択5	W複数	N無
府全体	9539	1452	2132	2418	1489	2037	1	10		15.2%	22.4%	25.3%	15.6%	21.4%	0.0%	0.1%
精華町A層	86	20	29	21	9	7	0	0		23.3%	33.7%	24.4%	10.5%	8.1%	0.0%	0.0%
精華町B層	90	19	21	24	8	18	0	0		21.1%	23.3%	26.7%	8.9%	20.0%	0.0%	0.0%
精華町C層	88	10	24	28	8	18	0	0		11.4%	27.3%	31.8%	9.1%	20.5%	0.0%	0.0%
精華町D層	85	11	19	18	15	22	0	0		12.9%	22.4%	21.2%	17.6%	25.9%	0.0%	0.0%

前項の学習時間と同様に、読書時間が多い児童生徒ほど、テスト結果は上位となる傾向にある。A層の児童生徒の57%は、1日に30分以上読書をしている。しかし、B層では44.4%、C層では38.7%、D層では35.3%になる。上位層の児童生徒には読書好きが多くいると考えられる。反面、学力層が下がるに連れて、読書時間が減少し、D層の25.9%は、まったく読書をしていないと答えている。学力層が高いほど読書習慣があり、低くなるほど読書習慣がない傾向が見られる。

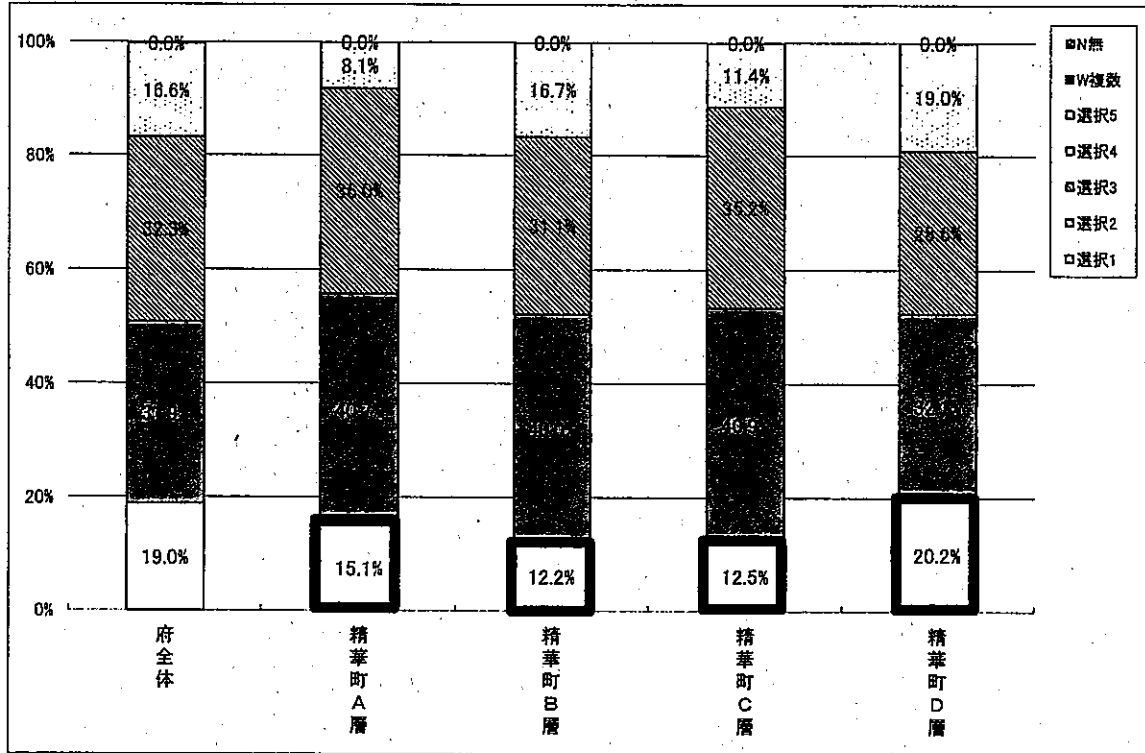
読書量が増えれば直接的に学力が上がる訳ではない。しかし、間接的には読書活動と学習活動は繋がっており、適切な読書指導が必要である。逆に学力、とりわけ漢字を読む力や読解力が向上すれば、結果として読書量が増えることも期待できる。読書と学力は表裏一体であり、豊富な読書活動を支えるための学力向上が必要である。

本調査では読書の内容にまでは踏み込んでいないが、児童生徒がよい本と出会い、読書に親しめるよう、読書指導を充実させていかなければならない。



⑧ 自分の考え・意見の発表

質問34	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。	
選択1	そう思う	A～D層について 層は児童を国語と算数を合わせた正答数の多い順に並べ、人数比率により25%刻みで4つに分けています。 上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層と呼称しており、正答数が同じ場合には上位の層に含んでいます。
選択2	どちらかといえば、そう思う	
選択3	どちらかといえば、そう思わない	
選択4	そう思わない	
選択5		



項目	人数								割合							
	全	選択1	選択2	選択3	選択4	選択5	W複数	N無	選択1	選択2	選択3	選択4	選択5	W複数	N無	
府全体	9539	1808	3042	3084	1582		1	22	19.0%	31.9%	32.3%	16.6%	0.0%	0.0%	0.2%	
精華町A層	86	13	35	31	7		0	0	15.1%	40.7%	36.0%	8.1%	0.0%	0.0%	0.0%	
精華町B層	90	11	36	28	15		0	0	12.2%	40.0%	31.1%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	
精華町C層	88	11	36	31	10		0	0	12.5%	40.9%	35.2%	11.4%	0.0%	0.0%	0.0%	
精華町D層	84	17	27	24	16		0	0	20.2%	32.1%	28.6%	19.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。」という問いに対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた児童生徒が、どの層においても約52%と、似たような傾向を示している。特に「そう思う」と答えている児童生徒については、D層が20.2%と一番高く、他の層より5%～8%以上高い割合を示している。

どの層においても、似たような傾向を示しているが、発表が得意なD層の児童生徒を活躍させる授業作りをしていくことで、授業の活性化や学力の底上げの一助となることが考えられる。



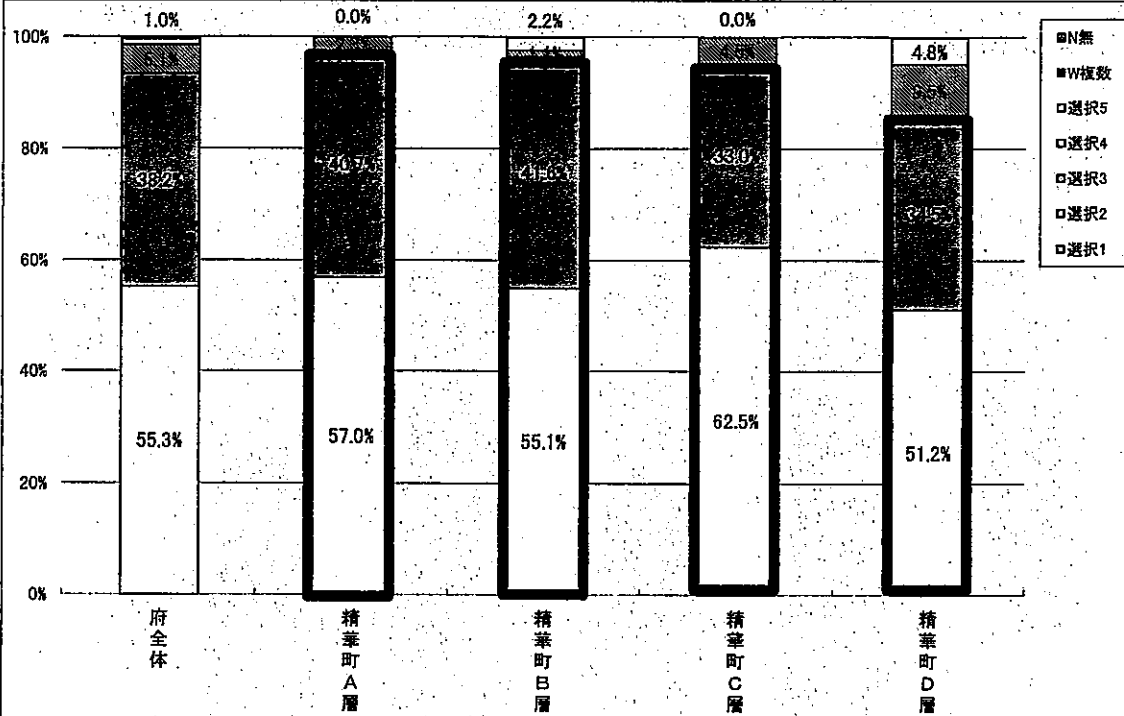
⑨ 他者の話を最後まで聞く

質問35 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。

- 選択1 そう思う
- 選択2 どちらかといえば、そう思う
- 選択3 どちらかといえば、そう思わない
- 選択4 そう思わない
- 選択5

A~D層について

層は児童を国語と算数を合わせた正答数の多い順に並べ、人数比率により25%刻みで4つに分けています。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層と呼称しており、正答数が同じ場合には上位の層に含んでいます。



項目	人数								割合							
	全	選択1	選択2	選択3	選択4	選択5	W複数	N無	選択1	選択2	選択3	選択4	選択5	W複数	N無	
府全体	9539	5275	3645	490	99	1	29	55.3%	38.2%	5.1%	1.0%	0.0%	0.0%	0.3%		
精華町A層	86	49	35	2	0	0	0	57.0%	40.7%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%			
精華町B層	89	49	37	1	2	0	0	55.1%	41.6%	1.1%	2.2%	0.0%	0.0%			
精華町C層	88	55	29	4	0	0	0	62.5%	33.0%	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%			
精華町D層	84	43	29	8	4	0	0	51.2%	34.5%	9.5%	4.8%	0.0%	0.0%			

「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。」の問いに対し、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えている児童生徒が、A層では97.7%、B層では96.7%、C層では95.5%と高い割合を示しているのに対し、D層では85.7%と他の層より約10%以上の差を示している。「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。」という問いに「そう思う」と答えていたD層の児童生徒が20.2%いたことから、「聞く」ことの指導を徹底することで、友達の意見を考えて発表する習慣を付けることができると考えられる。

「聞く力」を高めると…

- ☆ 周りに左右されない集中力が育つ
- ☆ 読解力が高まり、作文も上手になる
- ☆ 会話やコミュニケーションが上手になる

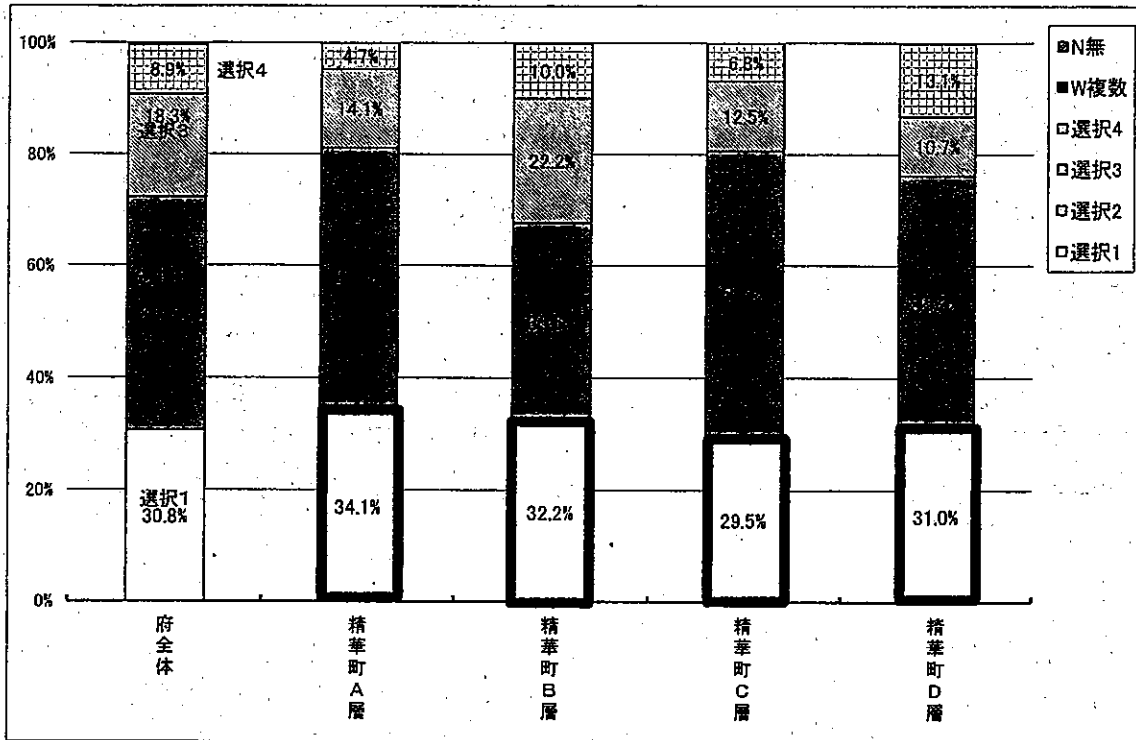
⇒ 学力がアップする

※「聞く」ことは、学びの始まりです。「聞く力」を高めるには、教師が子どもの話を聞くことから始めるのが大切です。「読み聞かせ」も有効な手立てとなります。



⑩ 「自分のよさ」を感じているか

質問47	自分には、よいところがあると思う	
選択1	当てはまる	A～D層について 層は児童を国語と算数を合わせた正答数の多い順に並べ、人数比率により25%刻みで4つに分けています。 上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層と呼称しており、正答数が同じ場合には上位の層に含んでいます。
選択2	どちらかといえば、当てはまる	
選択3	どちらかといえば、当てはまらない	
選択4	当てはまらない	

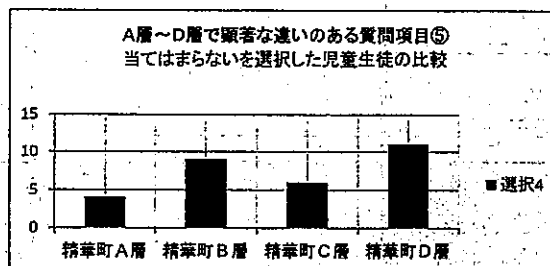
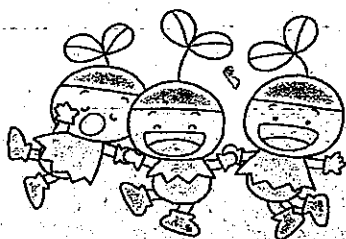


項目	人数								割合							
	全	選択1	選択2	選択3	選択4	選択5	W複数	N無	選択1	選択2	選択3	選択4	選択5	W複数	N無	
府全体	9539	2938	3970	1749	853		2	27	30.8%	41.6%	18.3%	8.9%		0.0%	0.3%	
精華町A層	85	29	40	12	4		0	0	34.1%	47.1%	14.1%	4.7%		0.0%	0.0%	
精華町B層	90	29	32	20	9		0	0	32.2%	35.6%	22.2%	10.0%		0.0%	0.0%	
精華町C層	88	26	45	11	6		0	0	29.5%	51.1%	12.5%	6.8%		0.0%	0.0%	
精華町D層	84	26	38	9	11		0	0	31.0%	45.2%	10.7%	13.1%		0.0%	0.0%	

自分のよさに気付くかどうかは、自尊感情や自己有用感に関わって重要な要素である。

「当てはまる」と答えた児童生徒は、どの層でも約30%に留まっており、各校において児童生徒が活躍し自分に自信を持たせる必要がある。また家庭とも連携し、積極的に児童生徒の学校で頑張ったことを伝えるなど、学校・保護者・地域が一体となり、児童の頑張りを認めたい。

「当てはまらない」と回答した割合はD層が最も高く、合わせて13.1%となる。



京都府学力診断テストの分析から見えてきたこと

～すべての教職員のみなさんへ～

精華町学力向上総合推進委員会(小学校部会)

「精華町学力向上総合推進委員会」では、すべての子どもたちの「質の高い学力」の育成に向けて、京都府学力診断テストの分析をもとに、授業改善や指導方法の工夫等について研究、推進しています。

この研究を進める中で見えてきた課題解決のためのポイントについてまとめました。あたりまえのことですが、再確認し、学校・学級経営に生かしてください。

学力課題の分析

- ・児童個々の課題分析を客観的視点で行う。
- ・学級、学年の課題についても分析する。
- ・指導の系統性を重視した分析を行う。
- ・課題解決のための仮説をたてる。
- ・具体的な手立て(支援)を明確にする。
- ・経年比較により、手立てについて評価し、新たな仮説をたてる。
- ・学校全体で課題や手立ての共有化を図る。
- ・「はぐくみたい力」見える化シート(山城版)を活用する。

基本的生活習慣の確立

- ・「早寝・早起き・朝ごはん」を身に付ける。
- ・学年・学校で統一したためやすの時間を提示し、家庭学習の習慣化を図る。
- ・学校のきまりや規則を守ることを日常的に意識する。
- ・テレビなどを視聴する時間、ネットやゲームをする時間について家庭できまりを決め、約束を守る。
- ・家庭での読書習慣を身に付ける。
- ・携帯電話、スマートフォンなどの使用についての約束を家庭で設定する。

授業改善 (ユニバーサル デザインの視点)

家庭との連携
他校種との連携
関係機関との連携
地域人材の活用

教材研究・授業研究

- ・単元の目標、本時の目標を達成するための授業展開を創造する。
- ・系統性を重視し、既習内容の定着具合と未習内容とのつながりを確認する。
- ・個別の課題設定により、目標の達成に努める。
- ・視覚に訴える教材・教具の工夫を図る。
- ・指導と評価を一体化した授業づくりを推進する。
- ・話し合い活動など言語活動を充実させ、思考力の高まる授業を目指す。

授業改善・指導方法の工夫

- ・個に応じた指導を重視する。
- ・単元の目標、本時の目標達成のための授業を展開する。
- ・ICTを活用し、学習への意欲を高める。
- ・習熟度別授業などを活用し、基礎・基本の知識理解の定着と活用する力の伸長を図り、自己有用感を高める。
- ・発問や板書を工夫し、すべての児童が意欲的に授業に取り組めるようにする。
- ・授業の始めにめあてを明確にし、授業の終わりには、まとめ・振り返りをする。

京都府教育振興プランにおける目標値

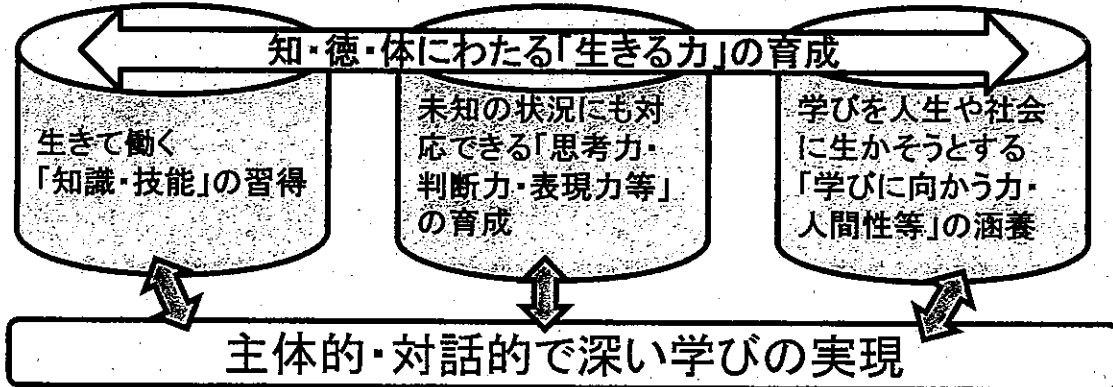
- ・京都府学力診断テストにおける正答率50%未満の子どもの割合、10%以下
- ・学校以外での勉強時間が30分に満たない子どもの割合、10%以下
- ・国語や算数の勉強が好きな子どもの割合、増加させる
- ・早寝、早起きが身に付いている子どもの割合、全国平均以上
- ・朝ごはんを毎日食べる子どもの割合、95%以上
- ・特別な支援を要する子どもの個別の教育支援計画の作成、100%
- ・保幼、家庭と連携して交流活動を実施している小学校、100%
- ・一斉読書の時間を週1回以上設けている学校の割合、100% など

質の高い・わかる授業を目指して

『せいか授業スタンダード』の確立に向けて

精華町学力向上総合推進委員会(小学校部会)

学習指導要領の改定にあたっては、知・徳・体にわたる「生きる力」を子どもたちに育むために、「何のために学ぶのか」という各教科等で学ぶ意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していくことができるようにするため、全ての教科等の目標及び内容が三つの柱で再整理された。



精華町学力向上総合推進委員会では、上記の新しい学習指導要領が目指すものも踏まえ、「質の高い・わかる授業」の創造に向けて、各校の実践をもとにそのポイントをまとめました。

A 授業規律の確立・態度の育成

- ・チャイムに合わせた始業・終業
- ・教室の環境整備
- ・全員を静かにさせてから話すなど、聞く姿勢や態度の指導

B 授業スタイルの確立

- ・適切なめあての提示
- ・本時のまとめをし、学びを振り返らせる。
- ・まず自力解決しようとし、その後、ペアやグループなど複数で話し合い、全体で深める場面の設定
- ・「やましろ授業スタンダード」の活用

C ユニバーサルデザインの視点

- ・配慮を要する児童への個別支援
- ・チョークの色や文字の大きさなど、工夫した板書
- ・発表に対して頷いたり褒めたりするなど、児童に共感し、自己肯定感を高めさせる。

D 評価

- ・指導と一体化した評価
- ・毎時の評価規準を明確にし、適切に行う。

チェックリストの作成

例		質の高い・わかる授業を目指して		〇〇小学校	
		チェック内容	評価	備考	
A	1	始業のチャイムを授業する教室で聞けましたか。			
	2	教科書やノート・筆記用具等必要な物が机の上に置かせていますか。			
	3	全員が静かになってから、児童に話しかけましたか。			
B	4	授業の内容を理解しためあての掲示ができましたか。			
	5	児童が話し合い深める、機会がありましたか。			
	6	本時のめあてに対して、児童が振り返り、まとめることができましたか。			
C	7	板書計画に基づき、チョークの色や文字の大きさなど工夫ができましたか。			
	8	配慮を要する児童に対して個に応じた指導ができましたか。			
	9	児童の意見を大切に、うなずいたり褒めるなどの機会をもちましたか。			
D	10	本時のめあてに対しての個別評価ができましたか。			

授業研究会での活用
授業改善・“授業力”のレベルアップ

お わ り に

京都府学力診断テストの結果について精華町は、小学校4年生の国語・算数及び中学校1年生の国語・数学のいずれも総合点で京都府・山城局管内の平均値を上回っており良好であります。しかし、国語では「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の領域」が他の領域に比べ正答率が低い傾向にあります。また、4年生の算数では「数と計算」「量と測定」「数量関係」の領域及び「数学的な考え方」の観点に課題があり、中学校1年生の数学では「量と測定」「図形」「数量関係」の領域に課題があることが報告されています。

また、全国学力・学習状況調査の結果については、京都府は前年に引き続き、国語・算数ともに、全国平均を上回り概ね良好であり、精華町は各学年・各教科とも、京都府や山城局管内の平均値を上回る良好な結果となっています。これは、各校において、少人数授業などの京都式少人数教育をはじめ、言語活動を効果的に位置付けることによる「ことばの力」をはぐくむ取組、個に応じたきめ細かな指導など授業改善が着実に進められている成果であると考えられます。

しかし、細かく見てみると京都府学力診断テストでは、国語において小学校4年生で正答率40%前後、中学校1年生で30%以下の問題があり、算数・数学においても小学校4年生で50%前後、中学校1年生で20%～30%の問題があります。これらの課題に対して本冊子では「授業改善のポイント」「改善に向けての指導アイデア例」など解決に向けた手だてを提案しています。さらに、質問紙調査の結果については、授業改善のみならず豊かな人間性の育成、生活習慣・学習習慣の確立、家庭との連携など総合的に学力を向上させる効果的な取組に繋げることを目指して、質問の中から10問をピックアップして学力層とのクロス集計とその分析を示しています。

本冊子が各校において十分活用され、指導方法の工夫・改善の一助となることを願うとともに、各校の先生方の授業改善をはじめとした様々な実践が交流・共有されることで、精華町内の児童生徒一人一人にさらに「質の高い学力」が身に付くことを期待いたします。

精華町学力向上総合推進委員会

小学校代表 瓦 俊夫